

大阪薬科大学報

26

大阪薬科大学広報委員会

1992年(平成4年)6月1日発行



目 次

理事長就任挨拶	理事長 大村 栄之助	2
大阪薬科大学の将来構想	学長 久保田 晴 寿	3
薬用植物の紹介 オウレン	草野 源次郎	1
新入生へのメッセージ	田中千秋・稲森善彦	4
就任の挨拶 就職部長就任にあたって	栗原 拓 史	6
心豊かな大学生活を	坂田 勝 治	7
事務局長就任挨拶	河野 光 次	7
惜別の辞 退職に際して	山口 秀 夫	8
医療薬学実習を終えて	酒井 清	8
退職に当たりまして	吉野 幸 夫	9
最終講義より 山口秀夫教授ご退職	有本 正 生	9
酒井清教授の最終講義を拝聴して	掛見 正 郎	9
研究室だより 第二薬剤学教室	掛見 正 郎	11
第二薬品製造学教室	赤木 昌 夫	12
倫理学・ドイツ語 I	森下 利 明	13
経済学・英語 II	阿部 功	13
教育研究費予算について	石田 寿 昌	14
平成4年度学校法人予算および予算制度について	河野 光 次	14
提言 「隠れ肥満」の防止について	望月 伸三郎	17
随想 教育雑感	土井 勝	18
卒業式に思う	濱中 久美子	18
元理事長・学長 宮道悦男先生御逝去	ニューフェイス登場	12
岡本 彰氏「藍綬褒章」受章	故 森坂勝昭教授のモニュメント	16
春沢信哉助教授「奨励賞」受賞	薬剤師初の「医療功労賞」受賞	17
卒業式・入学式	薬剤師国家試験の結果について	19
教務課だより	図書館だより	21
学生課だより	保健室だより	24
研究助成金採択者	学友会執行委員会	25
法人新理事長・就任	人事異動	26
各部・委員会・委員一覧	学位授与	28
前期行事予定	教員研究業績一覧(1991年)	29
巻末スポーツ特集 三薬科大学(薬学部)教職員親睦硬式テニス大会		39
第9回学友会スキー講習会		40



図書館入口の壁面を飾る絵画「花束」
〔ギィ・セラドゥール(フランス)作〕

表紙の写真は

オタネニンジン(Panax ginseng C. A. Meyer)
〔ウコギ科〕

朝鮮半島北部、中国東北部原産の多年草。葉は5小葉からなる掌状複葉で輪生する。初夏に淡黄緑色の花をつける。果実は赤熟する。4～5年生の根を乾燥したものが生薬の人参。漢方で強壯、強精、温補薬とする。ジンセノサイド類およびポリアセチレン類を含有する。

〔写真提供：教授 小澤 貢〕
〔文：助教授 馬場きみ江〕

オウレン



生薬の黄連はキクバオウレンなど、わが国固有のオウレン（キンボウゲ科）の細根を除いた根茎を乾燥したものである。中国の黄連が珍重されているのを知って、奈良時代に上記オウレンが発見され利用され始めた。現在では数少ない輸出生薬である。

中国では昔から「苦寒」といって、苦い味の生薬が寒（解熱、鎮痛、消炎、殺菌、止血、瀉下、利尿等）の作用を示すことを知っていた。中国の真性の黄連は現在でも品薄であるが、多分に四川省を中心とする奥山に生えるオウレン属植物が利用されるためであろう。その代わり、苦寒の性質を持った幾つかの生薬が代用されてきた。正倉院に保存されている黒黄連（754年以前に舶来）は胡黄連で代用品の一種である。

自然分類法に従うと、中国のオウレンとわが国のものは同属であるが、別種である。従って、中国の黄連と日本の黄連は厳密には一致しない。しかし、幸いなことに、オウレン属植物の主な薬効成分はベルベリンおよび関連アルカロイドで、黄連の示す多彩な薬理効果もこれらのアルカロイドで大部分同様に解釈される。

各種病原性微生物や原虫に対する抑制。抗生物質耐性赤痢菌の抑制。併用で抗生物質の感受性増強。細菌

性V B。補酵素の不活性化。細菌性コラーゲン分解酵素阻害。鎮静。血管拡張と血圧降下。下痢止め。緩下。抗炎症。止血。貧血抑制。胆汁分泌促進。放射線障害からの保護。抗がん性。血中脂質改善。血糖値低下。抗ヘルペス作用等。経口的には難吸収。非経口で速い組織分布。速い代謝と排泄。低毒性。漢方薬の黄連解毒湯は虚血で死期を早める脳細胞を延命させる。

バイオオウレンのベルベリン生合成ルートはメギのルートと違う。オウレン細胞はベルベリンを貯え、アキカラマツ細胞は外へ出す。前駆体からベルベリンへ導く酸化酵素の遺伝子のクローニング。

オウレンは春早く白色5～6個のがくと花卉の小花をつける。北国の森の中で残雪を割って、雄花と雌花が咲き始める。夭折した友人がオウレンの花を丹念にスケッチしていた30余年前を思い浮かべながら。

（文・写真：教授 草野源次郎）



「牧野新日本植物図鑑」より



理事長就任挨拶

理事長 大村 栄之助

理事長就任に当たり、御挨拶申し上げます。

昭和60年、本学の理事に就任して以来7年、またその間、理事長代行として時折、皆様にお目にかかる機会があったことと思いますが、この度、2月17日の理事会において前理事長岡本道雄先生の後任として理事長に選任されました。80有余年の歴史をもつ伝統ある大阪薬科大学の理事長に就任したことは大変光栄であり、同時に責任の重大さを痛感している次第です。極めて浅学非才でございますが宜しくご支援、ご鞭撻の程をお願い致します。

現在、本学のおかれている立場は極めて重大であります。

平成4年度をピークに大学受験生の減少、理系、薬学志望者の減少傾向など私立薬大の運営に、一つの転機を迎えています。

また、前記受験生の減少に加えて、文部省として、従来行ってきた私学に対する経常費補助金の意図的な削減がうち出され、私学の経営はこれから冬の時代に入ると言われています。

本学としては、移転問題も控え、従来のように学長に運営のすべてを依存することは、多くの問題もあり、また限界でもあると考えられてきました。理事会、久保田学長自身からの強い要望もあり、理事会を中心とした大学の力強い運営のため、まず学内の事務部門の整備が緊要と考え着手しました。本学の健全な管理体制の確立の為、私として微力ながら最善の努力をいたしたい所存であります。

本学の移転問題について少し触れてみたいと思いません。

本学松原キャンパスの狭隘と、老朽化にともない、移転候補地の探索が長年の懸案でございましたが、適当な土地が見つからぬままに、ここ数年が過ぎました。

たまたま、一昨年、住宅都市整備公団と高槻市が開発中でございました高槻阿武山団地に適当な候補地のあることを知り、各方面との交渉をおこなってきた結果、今回、約1万8000坪の土地の購入契約の締結の運

びとなりました。

実際に移転を始めるのはここ数年後になると思われませんが、諸般の準備が整いしだい、出来るだけ速やかに移転を完成させたいと思っています。

高槻市は交通の要地でもあり、文教の地として大阪医科大学、関西大学（高槻地区）、平安女学院短期大学などの大学、住友化学、サントリー、小野薬品、J.T（日本タバコ）、第一製薬、サンスターなどの民間研究所、工場などがあり、将来、何かと本学の発展の為に好適地と判断されます。

他方、60余年住み慣れた高見の里を離れることには、多くの人達が愛惜の情を禁じえないものがあることは当然であります。現在のキャンパスの再開発、近隣の土地の調査など、種々検討いたしました。本学の将来の発展のためには、四囲の状況からいかんともしがたく、大阪薬科大学100年の大計の為、思いきって移転に踏み切った次第です。

大学の移転は大事業です。並大抵のことではございません。同窓会も含め、全学一致でこの大目標の完遂に努力していただきたいと思えます。

いかなる環境下にあれ、本学の進展は一日たりとも停滞を許しません。いくつかの制約を乗り越え、本学の特徴をうち出すための施策を、全職員で見出し、見いださなければならないと思えます。

現在の薬学教育の在り方についての検討、また他の大学、官民研究所などとの積極的な共同研究の推進による研究の活性化など多くの問題が考えられます。

広い視野をもっておられる久保田学長を中心とした積極的な施策に、理事会は全面的に協力をしていきたいと思っています。

危急時、非常時にこそ本学の真の発展の基が醸成されるものと私は信じています。

将来にわたる本学の発展をのぞみ、当面の困難を克服する為、全教職員諸氏の全面的なご協力を切望したいと思えます。



大阪薬科大学の将来構想

学 長 久 保 田 晴 寿

わが国の18歳人口は、本年の205万人を最高に来年から急速に減少し、21世紀に入る2000年には約150万人になり、さらに減り続けると予想されています。この現象は、アメリカではすでに約15年前に現れて、大学は生き残るために、成人学生の受け入れ、教育課程の改変など大胆な変革を積極的に行ったといわれています。わが国においても、これから大学は氷河期を迎え、大学の存在価値が問われ、すでにその兆しを見せている社会の大学に対する評価の変化は、今後も更に続くであろうことは容易に想像されます。国公私立を問わず、大学はいま、その魅力作りに懸命です。

薬科大学は薬剤師養成の教育的責任を担った唯一の専門大学であり、薬学を学ぶ大学であります。薬学とは物理学、化学、生物学等の基礎科学の基盤を必要とする理系の総合科学で、薬を介して医学と融合し、人間の生命に働く物質についての科学や技術に関する学問体系であります。

21世紀を目前にして、わが国は西欧の社会に比べて極めて早い速度で高齢化社会に突入し、社会規範の見直しが迫られています。このような流れの中で、薬学は健康、医療、環境衛生等の面において、人間福祉に貢献するよう社会から強く期待され、薬科大学の存在価値は益々高まることは明らかであります。

大学が若者をひきつける魅力は、歴史と伝統、魅力的なキャンパスと優れた教育研究設備、教員の教育研究能力、教育の特色などです。

昨年7月に大学設置基準の改正が行われました。その内容は124単位の総単位数だけを規定して、一般教育科目、専門教育科目などの区分が撤廃される基本的

な大改正で、その運用は、大学の自主性に任せられるとともに、大学は自己点検、自己評価を強く求められることになりました。本学では、従来から各教員が年間に国の内外の学会誌等に報告した研究業績に関しては公表しておりますが、昨年からは学生に対するアンケートを参考にして、教育の改善充実にも努めました。また、薬学科、製薬学科に魅力的な個性を持たせるために、本格的なカリキュラム改正の検討に入っております。

大学審議会は、大学院の量的整備の必要性を答申していますが、本学も医療技術や医薬品産業の発展に伴い、社会の要求する高度な専門知識や能力を有する人材を養成するために、大学院をさらに量的、質的に整備充実する努力を続けて参ります。国際的に、また社会に開かれた大学院を目指して、外国人留学生を受け入れ、将来は社会人を現職のまま大学院に受け入れたいと思います。

科学及び近代技術の急速な進歩と高度情報化に応じ、大学が学習の環境を改善し、施設設備を整えて、教育研究の質的向上を図ることは重要であります。本学では、キャンパスが狭隘になりましたので、かねてより移転先の土地を探しておりました。このたび、高槻市の阿武山地区の土地を購入できましたことにより、魅力的なキャンパスを作り、教育研究の環境を整備することが可能となりました。これらの完成により、古い歴史と輝かしい伝統を有する大阪薬科大学が社会に開かれた、国際的に評価される、個性的で魅力ある大学として大きく発展することを確信しています。

新入生へのメッセージ



教務部長
教授 田 中 千 秋

新入生を

新入生の皆様ご入学おめでとうございます。皆様は長い受験戦争の試練の中、人一倍の努力の末、入学の栄冠を勝ち取られました。入学は始まりです。人生の大切な一つの節目です。皆様は数多い進路から薬学を選ばれました。薬学は薬を通じて医療の一端を担い、人類の福利厚生に貢献する重要な学問であります。本学は薬学という学問の府であり、学士(薬学)の学位を有する立派な薬剤師を養成し、世に送り出すという社会的使命を担っている大学です。それ故、過密気味のカリキュラムと厳しい試験制度を皆様に課しております。今日は同世代の40%近くが進学するという大学の大衆化時代であり、多くの大学が“レジャーランド化”とか、“保育園化”していると云われています。皆様はかかる社会の風潮に影響されることなく、目的意識を持ち、切磋琢磨され、人格、知性ともに豊かな人物に大成されるよう期待しております。

ここで、本学の現状を紹介しておきます。過去5年間の留年者数は1年次15~58、2年次6~15、3年次11~48、4年次2~4、合計46~86でありました。留年は1年次と3年次で多くなっています。要注意です。留年は個人にとって不幸であり、社会的にも大きな損失です。十分に対応し得る能力を持ちながらやる気をなくしたのが原因でしょうが、残念なことです。いま、高度技術社会に対応すべく大学院の量的、質的整備が求められております。本学でも大学院進学者が急増しており、大学院で立派な研究成果をあげ、就職先で大いに活躍しております。大学院進学も有力な選択肢のひとつです。将来の方針をできるだけ早くたて、必要な準備を着実に進めて行くことが肝要です。また、新卒者の過去5年間の薬剤師国家試験の合格率は70~93%で、私学29校中の順位は8~26位でありました。国家試験の成績は大学の評価に連がるものです。合格

には各年次の勉学とともに4年次後期の勉学が重要です。一人の不勉強による不合格は本学の名声を落とすことであるという意識が欲しいものです。

本学では、時代に合った大学教育の在り方、カリキュラムの見直しについて論議が続けられています。学生の皆様のニーズに合った薬学教育、厳しさの中にも思いやりのある、本目の細かい教育の場が構築されるよう期待しております。新入生の皆様には健康に留意し、有意義な学生生活を送られるようお願いしております。



迎 えて

学生部長
教 授 稲 森 善 彦



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。元氣澆刺とした皆さんをお迎えすることが出来ましたことを、教職員一同心からお喜び申し上げます。

さて、皆さんは今日から薬学を学ぶことになりましたが、皆さんの選ばれました道は遣り甲斐のある学問であると私は確信しております。何故なら、薬学とは難病の治療に必要な医薬品の開発から、保健衛生の向上ならびに福祉に貢献するといった人類の幸福に不可欠な学問であるからです。そこで、十分に能力を発揮するためには入試勉強のようにせまい目的のための強制された勉強ではなく、創造性豊かな主体性のある勉強が必要であると思います。つまりあくまでも自分で勉強することが肝要で大学とは皆さんの隠された能力を引き出すための場を提供しているだけであるといっても過言ではありません。したがって、たえず努力され悔いのない大学生生活を送られんことをお願いしておきます。

次にクラブ活動を通してより多くの良き友人との輪を広げて下さい。仏教用語に「多逢聖因」という言葉がありますが、これは「多くのいい人にめぐり会うと、いい結果に恵まれる」という意味です。同じ目的に向かって若き情熱を燃やし、協力し合い、努力することは体育活動であれ、文化活動であれ、必ずや皆さんの人生に深い感銘を与えることでしょう。いずれにしても、人との触れ合いを大切に、幅広い人間になるよう努力して下さい。

最後に相手の立場を考えつつ、自分の意志を十分伝達出来る明るい学生になって下さることを念願し、歓迎の辞といたします。

訃 報

本学元理事長・学長 宮道悦男先生御逝去



宮道悦男先生は昭和41年4月1日から昭和45年12月22日まで学長、そして昭和44年11月7日から昭和45年12月22日まで理事長を務められました。ご退任の後、東京都武蔵野市に居住しておられましたが、今年3月15日享年99才で逝去されました。3月29日に葬儀、告別式が京都市下京区上徳寺で行われ、本学から久保田学長、吉野事務局長が参列し、先生の御冥福をお祈り致しました。





就職部長就任にあたって

就職部長 栗原拓史
教授

この4月より2年間、就職部長を担当することになり、責任の重さを痛感している次第です。

昨今、就職戦線の早期化が進み、来年の大学院修士修了見込みの院生の就職話は既に終わった……などと耳にする状況です。しかし、4回生諸君、君たちの就職活動はこれからです。しっかりと自分の将来を見据え、進みたい道を出来るだけ早く決め、心して就職に臨むことが何より大切でありましょう。

バブル経済崩壊のあおりを受け、不況の2文字が見え隠れするこの時期に就職部長とは……と頭を抱える反面、本来不況に強いこの薬業界でもあり、「ここ数年の超売手市場から超の字が取れた程度の状態がまだまだ続くでしょう」といった楽観論も耳にします。特に男子の就職において、大学院進学を除けば、その5割以上が進むと予想される製薬企業の営業部門（MR）は今年も比較的明るいと考えられます。だからといって安易に職種、企業を選択することは危険であり、十分な調査と自分の適性を見極めた上で決めるべきことは言うまでもありません。昨年、公正取引委員会からの指令で、薬の価格交渉は直接MRが行うことが禁じられ、医師側にもMRとの価格交渉をしないように

と伝達されているそうです。その意味からもこれからのMR業務は本来の Medical Representative の言葉通り、薬の正しい情報を医師に伝え、薬の中身で勝負出来るようなシステムが一層明確になってくると思われれます。一方、女子の場合、医療部門への就職が敬遠され、企業一辺倒の傾向がますます強くなりつつあります。男女雇用機会均等法が施行されて数年、女子学生への企業就職の窓口の拡がり期待されたにもかかわらず、“物を創る”ことを主体とする製薬関連企業においては、むしろ難しくなりつつあるのが現状のようです。前任の就職部担当者のご苦勞もそこにあったものと想像されます。そうした中で、別表の平成3年度卒業生進路一覧表に見られる結果に対し、改めて前任の就職部担当の皆様のご努力に敬意を表する次第です。

就職は人生における大きな節目の一つであり、しかも極めて大切な問題であることは十分に認識しているつもりです。さらに「就職」が大学の大きな評価基準で、入学時の偏差値と同じ意味合いを持つと言われていた中であって、一人でも多くの学生の希望する先への就職がかなえられるよう、微力ですが、努力してまいりたいと思っています。

(別表)

平成3年度卒業生進路一覧表

()は大学院生

	男		女		計	
	人数	内定率(%)	人数	内定率(%)	人数	内定率(%)
薬業関連会社(営業)	39(2)	29.5	14	8.8	53(2)	18.2
(研究,開発,学術,品管,管薬,他)	15(14)	11.4	80(2)	50.3	95(16)	32.7
食品,化粧品,他	2	1.5	3	2.0	5	1.7
薬局小売,薬局チェーン,卸	12	9.1	5	3.1	17	5.8
病院,診療所	9	6.8	27	17.0	36	12.4
大学病院研修生	4	3.0	12	7.6	16	5.5
大学職員	1(1)	0.8	5	3.1	6(1)	2.1
公務員	10	7.6	4	2.5	14	4.8
進学(大学院,他)	38(1)	28.8	4	2.5	42(1)	14.4
不就職(自家業,他)	2	1.5	4	2.5	6	2.1
未就職(卒後就職活動予定)	0	0.0	1	0.6	1	0.3
卒業生計	132(18)	100.0	159(2)	100.0	291(20)	100.0
進路内定者計(就職,進学,他)	132(18)	100.0	158(2)	99.4	290(20)	99.7



心豊かな大学生活を

寮 監 坂 田 勝 治
教 授

人間の心情というものは、昔も今も、あまり変わりはないと思う。日頃、新旧世代の異質性が強調され勝ちだが、その背後にかなりの同質性が存在するのも事実である。このような陳腐で当たり前の事を唐突に述べて恐縮だが、現在の学生諸君との接触の中でその感を強くしている。確かに、この半世紀における社会状況の変化や科学の進歩はすさまじく、それが人々の生活や意識に対して与えたインパクトは語るを要しないであろう。またその結果として、物質的豊かさの出現によって、人々の生活様式も大きく変貌して来ている。従って、大学生の意識変化も極めて当然である。

「大学寮」に関しても事情は同じである。個性化と多様化の社会思潮の中で、ワンルーム・マンション志向が顕著なのは当然である。しかし、本来的に団体生活の実践の場である寮にも、素晴らしい宝が内在していると思う。それは寮生同士の心の交流であろう。実際の運用面での問題点や煩雑さも十分考えられるが、それにも拘わらず、同じ学舎に籍を置き、同じ学寮に生活し、共に語り、共に学んだ経験は、きっと生涯にわたるかけがえのない貴重な思い出となるであろう。寮生みなさんが心豊かな大学生活を過ごされるよう、祈ってやまない。そのために微力乍ら努力してみたい。



事務局長就任挨拶

事務局長 河 野 光 次

緑が美しく映える季節になって参りましたが、この程5月1日付にて事務局長を仰せ付けられましたので一言御挨拶申し上げます。

最近テレビや新聞で「大学の在り方」についてのキャンペーン番組や特集記事が多くなってきているように思います。いずれも大学生の学生数減少を契機に「冬の時代」を迎えることを予想し、大学の生き残り作戦を基本に将来に対して活性化の必要性を訴える内容となっています。

本学は80有余年の長い歴史と伝統を誇り、幾多の有名な人材を世に送り出し、すぐれた先輩があまたとい

う高い評価の大学であります。本学にも時代の流れと無縁という訳にはいかず、いろいろな形で影響が及んで来ています。特に何らかの対策を施すとすれば、財政的資金的支出を必要とするケースが多いと予想されますので、大学の財政の健全化・安定化を維持しつつ、将来の対策をはかるということが重要な課題かと考えられます。

こうした大変重要な時期には未経験であり、力不足ではございますが、微力をつくして本学の発展のために努力いたす所存ですので何卒御指導御鞭達の間程よろしくお願い申し上げます。

惜別の辞

退職に際して

教授 山口 秀 夫

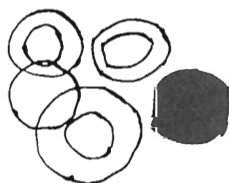


私は平成4年3月31日をもって本学を退職致します。昭和34年着任以来33年に及ぶ勤務でした。自分ではそれ程年月を経た気持ちがしないのですが、先日教室出身者の会で、初期の方々が皆立派なオジサン、オバサンになって居られ（私にはこの方々の学生時代の姿がはっきり記憶されているのですが）、一番若い卒業生とは正に親子ほどの年齢差があることを知り、今更の如く月日の経過を実感した次第です。

着任した当時の本学は率直に言って人的にも、物的にもお粗末なもので、現状と比較するとよくここまで発展して来たものと感慨無量なものがあります。

在任中の忘れ得ぬ思い出としては、永年の願望であった大学院の完成があり、これに関連して2名の論文博士の主査を務めさせて頂いたことは私として本当に嬉しいことでした。また終り近くになって大学の移転問題に目処がついた事も忘れ得ぬ思い出です。これによって本学が次元を異にする飛躍をなし得る土台が築かれたと言ってよいと思います。

今私は30年余の本学での役割を大過なく終え、舞台から下手へ引き揚げるところで、ほっとした安心感で一ぱいです。御別れに際し、皆様の御健闘と御健勝を心から御祈り申し上げます。



医療薬学実習を終えて

医療薬学実習担当委員長

教授 酒 井 清



本年度の医療薬学実習も無事終了した。

本学の場合、実習期間が比較的長期であり、また、病院によって、その期間に多少の相違があるとともに、設備、規模、人員等が異なり、それぞれ独自の特徴を有しているの、統一

性のあるカリキュラムを実施するのは難しい状況である。しかしながら、私が医療薬学実習担当になってから2年間の実施経過をみると、学生側、病院側ともに多少の課題を残しているが、両者からともに比較的高い評価を得ている。学生側の感想としては、卒業後病院薬局へ就職を希望している者はいうまでもなく、他の分野に進出する者も有意義な体験をしたという意見が多い。一方病院側についても、一部に病院志望の者を優先的に配属して欲しいとの希望があるが、全般的には他の分野に進む者も病院における実習体験を生かし各職場で貢献できるように極めて熱心に後輩の育成にあたられている。今後は、実習期間中における医療各分野とのコミュニケーションを高めるために、配属前の大学における事前教育について医療薬学の面から考えていくべきである。

我が国における医療薬学を考える場合、見逃すことができないのは、米国におけるクリニカルファーマシーの流れであろうと思われる。米国の薬剤師は、従来の物質指向の業務から薬物療法に積極的に参加し、患者指向の業務へ大きく変わってきた。これに対し我が国の医療指向、患者指向の流れは、米国のように一挙に臨床に入り込むことなく、調剤、製剤、D I 清動等に基礎をおいて、徐々に患者指向の分野を広げていく形を取ってきた。このような違いは、国民性、歴史的風土など医療や薬学以外のファクターまでも含めて考えればさらに大きくなるであろう。その目標とずるところは理解できるし、多くの薬学関係者の共感を得るところでもあると思われるが、当面とり得る具体的な方法には限界があり、しかも解決していかねばならない問題があまりにも多いのが現状である。今後の関係各方面による理念の統一と、実施についての長期、鍾

期の具体的な指針の確立が望まれる。共通の理念のもとに、薬学あるいは関係学科の強力な支援が得られれば、米国とはまた違った方式で新しい医療薬学関係者を生み出していくことができるのではないかと思います。近い将来、薬物療法の範囲はますます拡大され、質的にも大きく変わっていくことが予測される。薬学関係者は薬物療法のこのような変化に十分に対応して、医療の中でその役割を果たすことが期待されている。

薬学がこれからの社会にとっての医療の期待にこたえるには、患者を中心とした薬学へふみ出して行かねばならないのではないかと考えられる。

本学も移転問題等をひかえ、ますます多事多難になってくることと思いますが、大阪薬科大学の一層の発展と皆様の御健康をお祈り申し上げます。退職にあたり、医療薬学実習の総括を兼ね、御挨拶の辞と致します。

退職に当たりまして

事務局長 吉野幸夫



このたび、私は平成4年3月末日をもって大阪薬科大学の事務局長の職を退職いたします。

私は、昭和60年4月に本学に着任しましたので、以来満7年の勤務となりますが、この間、教職員の皆様の格別のご懇情により、お

陰さまでこの日を迎えることができました。深く感謝いたしております。

退職に際しましては、皆様から温かいご芳志を頂き、また事務の方々には再度にわたる送別の宴を設けて頂き、まことに有りがとうございました。厚く御礼申し上げます。

大阪は、私にとりましては、きわめて深いご縁のあるところで、昭和51年7月から約3年の間、大阪外国語大学の事務局長として在任し、その後、数年を経て、本学の事務局長として勤務させて頂き、前後10年にわたり、なじみ深いところとなり、大阪の人情をしみじみと感じているこの頃でございます。

退職後も、しばらくは大阪に在住するつもりでありますので、お目にかかれる機会もあろうかと存じます。何とぞ、今後ともよろしくご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

ここに教職員の皆様のご健勝とご多幸とを深く祈念申し上げます。

最終講義よび

山口秀夫教授ご退職



山口秀夫教授は、昭和34年に本学に助教授として着任され、昭和40年教授への昇格を経て、33年間という長きにわたり、有機化学担当教員として、研究と学生への教育に御精励になってこられたが、平成4年3月末日付をもって、嘱託教授を退かれた。なお、御退職に先立ち3月7日(土)午後2時より約2時間にわたり、本学の思い出深い25教室において、御退職記念最終講義が行われた。

“一有機化学徒の見た一有機化学半世紀の歩み”と題して、大阪薬科大学の発展と共に歩んでこられた研学生活とそれにまつわる話題についてお話になり、理事、教職員、ならびに学生多数が聴講した。また、伝え聞いた卒業生も多数聴講のため駆けつけ、山口教授の本学における永年の功績を讃えた。

(記：助教授 有本正生)

酒井清教授の最終講義を拝聴して

2月29日土曜日、午後2時半より第一薬剤学教授酒井清先生の最終講義が本学主催で行われた。開場となった第31教室に教職員、卒業生、学生多数参集のなか、西野隆雄講師の司会で始められた、まず久保田晴寿学長のご挨拶および酒井教授の御略歴の紹介があったあと、大きな拍手と共に酒井教授が登場され、「医療薬学の今昔」と題しての最終講義が始められた。酒井教授は昭和43年に本学薬剤学教授として赴任され、

爾來24年間に亘り本学の薬剤学の研究及び教育に尽力されてきた。とりわけこの数年は医療薬学実習の責任者として、関西圏32病院へ実習生を派遣する、いわゆる「大阪薬大方式の病院実習」の定着化に向けて大変なご努力をされてきた。現在ではこの実習もほぼ軌道に乗りつつあるが、これには先生の名古屋大学医学部付属病院での20余年にわたる薬剤師としての貴重な実務経験が生かされていることは周知のとおりである。先生は講義の中で、第二次世界大戦中、薬学生としてあるいは陸軍薬剤委託生として、戦後の混乱期を薬剤師として如何に生きぬいてこられたかを色々なエピソードを交えて淡々と語られた。この中で、昭和20年代の当時、先生の恩師でもあられる名古屋大学医学部長での後の名古屋大学の二代目学長になられた田村先生から「現在の医療を広く強力にコントロールしているのは第一に薬物療法であり、これを支えているのは安全で有効な薬物である。したがって薬物の専門家である薬剤師の医療上の責任は重い。薬物がその役割を果たすのは研究室でもなければ薬局の中でもなく、病院の外来であり病棟であり、あるいは家庭の中であるので、薬の関係者の関心は常に臨床現場に向かっているなければならない。これからの薬剤師は従来のように処方調剤に専任するだけではなく、基礎医学的な知識を修得して、薬物療法に積極的にタッチすべきである。」といわれ、酒井先生が選任されて、医学部病理学、薬理学、生化学教室に向出し基礎医学の研修に勉められるかたわら、皮膚科の外来へ行き薬物療法の実際を習われたようである。これは臨床医学的な知識をもって薬剤を交付し服薬を指導する、今で言う「病棟薬剤師」あるいは「臨床薬剤師」の萌芽が、日本においてもかなり早い時期にあったことを物語っている。しかしながら、わが国の医療薬学はアメリカの clinical pharmacy のようには順調に発展してこなかったことはご承知の通りであり、なぜ日米双方でこのような発展の違いが起こったのか興味深い点である。先生はこの原因の一つとして、欧米と日本では薬剤師業務の変遷に大きな相違があったことを指摘された。

すなわち、アメリカの薬剤師業務は、比較的早い時期に物質中心の業務から臨床的な薬物治療に積極的に参加する、いわゆる患者指向性の（patient oriented）業務へと大きく転進していった。これらを背景にして、現在アメリカを中心に行われている clinical pharmacy の教育が出来上がってきたわけであり、この他に欧米と日本では、(医薬分業に由来する)「薬剤師の地位」に根本的な違いがある。したがって、これらの背景を無視して欧米の clinical pharmacy の教育をそのまま直輸入することは、日本の制度に混乱をひきおこすばかりでなく医療薬学自体が根付かないで終わる心配も



あり、慎重に行うべきだと述べられた。その上で先生は、日本薬剤師会、日本薬学会、国公私立薬科大学など関係諸団体で discussion を行い、これらの共通の理念のもとに「日本独自の医療薬学およびその教育制度」をつくりあげてもよいのではないかと提唱された。この日本独自の医療薬学教育とは、アメリカのように一挙に臨床医療指向の教育へ方向転換するのではなく、日本での歴史的な背景を踏まえ従来の調剤学、製剤（薬剤）学、D I 活動等に基礎をおきつつ、これを通して患者指向の分野をだんだんと広げて行く方向ではないかと先生は述べられた。これは非常に重要な示唆で、従来臨床薬学の導入に際し、このような議論はほとんどされてこなかったのが現実で、今後このような点も考慮して、臨床薬剤師の養成をはかるべきだと私たちは痛感した次第である。また、先生は最後に、将来の薬剤師には、「くすり」としての物質的な知識に加えて、臨床医学的な知識もかなり要するので、今日のような医学の急速な進歩にも余裕をもって追従できるよう、旺盛な知識欲とその応用力が必要であることを説かれた。また将来的には東洋医学が薬物療法の範囲の拡大をもたらすことはまちがいないので、薬学従事者は、少なくとも医師に対して助言できるように知識の涵養に努められたいと要望された。この後、先生の講義は、わが国における明治期以前の医療について、スライドを用いて進められた。この中には若い薬学生にはほとんど馴染みの無い神獸や薬祖神（神農、少彦名命）の話、和漢薬、民間薬の説明があり、興味深く先生の講義を拝聴した。

約一時間余りの講義のあと、卒業生と在学学生からの花束の贈呈があり、大きな拍手の中、先生は笑顔の内に降壇され、参加者に深い感銘を残しながら最終講義が終了した。

(記 教授 掛見正郎)

第二薬剤学教室

教授 掛見 正 郎



薬剤学あるいは製剤学講座が全国の薬系大学に設置されてすでに四十余年、今ではわが国の薬学研究の主要な分野の一つにまで発展を遂げた。しかし学問的には比較的若いためにその研究分野の発展と細分化はきわめて急速で、まるで「流行のように」ある分野の研究が現れては、まもなく消えるといったことが毎年繰り返されている。現在、「大学を卒業するまでに修得した知識が、どのくらいの期間実社会で通用するか」の指標として「知識の半減期」という考え方がある。薬剤学のある分野ではおそらく3年以下、いいかえれば3年を経ずに大学で学んだ知識の半分は陳腐化してしまう状況にある。となれば、大学では学生に最先端の知識を与えることも必要ではあるが、将来に向かっての展開を可能にする原理原則論をいかに教えていくかが、より重要ではないかと考えている。

私が、故森本勝昭教授の後任として第二薬剤学教室を担当して丸一年がたち、そろそろ教室としての進むべき新しい方向を確立しなければならない。教室員は、森本一洋助教授、梶原、丸山(M2)、大音、中出、明星(M1)の大学院生と、10名の4年生の総勢17名、意外に大所帯である。教室としては、薬動学(pharmacokinetics)を基礎に置いて、「有効な製剤、すなわち薬となるべき物質にとって最も効果的な投与方法と投与剤形を考究すること」を基本目的にしている。具体的には、①ACEI系降圧薬などをモデル薬物に、その生体内動態と薬理効果との関連性を速度論的に定量化することによって、生理学的な因子——例えば種々の日内変動因子など——を組み入れた新しい薬物投与計画設定法を確立すること、②いくつかの内因性生理活性物質の最適投与計画、投与経路の設定とバイオアベイラビリティ評価法を、薬理効果と薬物動態の両面から確立すること。③経口投与、経皮投与、経粘膜投与からの吸収改善およびその吸収促

進剤に関する基礎的研究——などであるが、特に②のテーマは昨年から新たに開始したものである。近年効力の強い内因性生理活性物質が医薬品として次々開発されて、臨床的に用いられつつある。しかし、厳密な意味では、これらのバイオアベイラビリティの評価法すら確立されていないのが現状である。私たちの研究はあくまでも基礎研究であるので、この結果がすぐ臨床的に利用されるわけではないが、少なくとも発想と目的だけは「患者を指向している」ことを明確にしておきたいと思っている。

私たちの第二薬剤学教室では、職員・院生・学生とも出来る限り明るく自由な雰囲気でもしかも真剣に研究を行ってもらいたいと願っている。というのは、私たち自身の研究の発展はたしかに大切であるが、それと同時にこれらの研究を将来担い発展でき得る若い研究者の育成も非常に大切であると考えているからである。そのためにはなるべく教室員や学生とのdiscussionを通して、自分自身で考えて実行させるように、suggestionは与えても考えは強要しないように心掛けたいと思っている。ただ私自身、このところきわめて多忙で、大学院生、4年次生には迷惑をかけている。なぜこの大学はこんなに用事(ほとんどが雑用)と会議が多いのか不思議なほどで、今後はこれらを整理していかないと、押しつぶされてしまうのではないかと危機感を強めている。本年は森本助教授が米国南カリフォルニア大学 Vincent Lee 博士のもとに、4月末から約10カ月間留学することになっており、しばらくは研究指導面その他でさらに手薄になることが予想される。しかしこれも本教室の発展のために必要なことと考えており、帰国後研究その他での活躍を大いに期待している。



後列 新野④、西出④、狩野④、吉田④、東郷④、庄野④、植村④
前列 前田④、丸山(M2)、掛見教授、森本助教授、梶原(M2)、明星(M1)

第二薬品製造学教室

助教授 赤木 昌夫



昭和44年、母校に就任して現在までに種々の課目と実習を担当し、数多くの学生(128人)を指導して参りました。4年周期でカリキュラムの変更があり(表)、大変苦勞を伴いましたが大いに勉強になりました。

特別実習の指導に当たった助手も山本一郎君、木ノ本滋君(故)、山北京子さん、尾崎和子さん、そして現在の浦田秀仁君と交代しました。

<研究テーマ>

1. 医薬品の紫外線による変化生成物の研究
2. 生体成分DNAの光化学反応に関する研究
3. 光化学反応による多環性生理活性物質の合成研究
4. 合成オリゴヌクレオチドと制癌剤との相互作用に関する研究

有機化合物の光化学反応には、異性化、転位、置換、環化、酸化、還元等が観察され、目的に合った条件、波長、溶媒、時間等の選択に苦勞するが、他の方法では合成できない系が光化学反応で得ることができる。固相反応でうまく反応する場合もあるし、立体選択的の合成も可能である。

数年前は小麦色のハダ<サンバーン>の若者が流行した頃もあったが、フロンによるオゾン層の破壊(オゾンホール)で有害紫外線によるヒフ癌の発生<DN



藝科高原にて

A損傷>が報道されて、紫外線を避ける様になってきた。(サンスクリーン)

制癌剤がDNAやDNA異性化酵素を攻撃すること、薬物(ソラーレン)による光線過敏症の発現、紫外線、フリーラジカルによる発癌等を念頭におき、紫外線を積極的に利用し有用な化合物を創製することが夢である。DNAに関しては浦田君の担当です。活気ある学生の入室を乞う!!

趣味:写真, 酒, 煙草, コーヒー, 将棋
血液型: B型

合成化学(Ⅳ, S46~47; Ⅲ, S46~47), 実習(Ⅳ, S44~47; Ⅲ, S45~47), 高分子化学(Ⅳ, S47~60, Ⅲ, S60~H3), 専門ドイツ語(Ⅳ, S49~54), 特別講義(Ⅳ, S48~60), 薬品化学Ⅰと実習(Ⅲ, S54~57), 化学Ⅰと実習(Ⅰ, S58~61), 薬品化学Ⅱ(Ⅳ, S59~61), 薬品化学(Ⅳ, S62~63) 薬品製造学Ⅱ(Ⅳ, H1~3), 実習(Ⅲ, S62~), 薬品製造学Ⅱ(Ⅲ, H4~)

ニューフェイス登場

友尾 幸司(助手)



この度、第二物理化学教室の助手として着任いたしました友尾幸司です。学部、大学院(前・後期)と9年間在学した愛着あるこの大阪薬科大学で勤められる事は、私にとって大きな喜びであります。

今後、気を一層引き締めて頑張りますので、よろしく御願いたします。

藤井 忍(助手)



このたび第一生化学教室の助手に就任しました藤井です。私は1989年本学の修士課程を修了後、摂南大学薬学部にて3年間勤務し、主としてRⅠ実験施設と動物実験施設の管理を行ってまいりました。今後は本学の発展のため努力する所存でありますのでよろしくご指導のほどお願いいたします。

教授 森下利明
(倫理学、ドイツ語Ⅰ担当)



私たち一般教育を担当する教室の構成員は、担当教員一人のみである。全学生諸君とは、ドイツ語で顔を合わせているが、私の本職は倫理学であることを案外知らない人がいるのであるまいか。けれども、私が本学に赴任して以来、「倫理学」と名のつくどんなテキストを用いても、学生諸君が一向に興味を示してくれなかった事は事実である。このことが私の大きな悩みの種であった。従って講義内容については、永年試行錯誤の繰り返しであったと云ってよい。そのようなわけで、昨年度からは全く頭を切り替えて「バイオエシックス」を始めているが、何れにせよ新しいことを始めるのは、決して楽なことではないのである。

私は、かつて自分の専門分野を講じたことがない。というのは、私の専門とするところは江戸時代の儒学倫理思想の研究であり、そのような特殊研究を講じても歓迎されないのであろうし、また一般教育としてふさわしくないと考えているからである。

最近私の研究室には、女性史・女性問題に関する書籍がどんどん増えている。何れ然るべきテーマの講義になる筈である。人間の在り方のすべてが倫理の問題であるから、私の講義が、将来医薬関係に携わるであろう学生諸君に対し、人として生きることを考える一つの材料を提供することにでもなれば、それで十分と思っている。

助教授 阿部 功
(経済学・英語Ⅱ担当)



「研究室だより」と言えば、研究内容、研究スタッフの紹介が主旨となるが常道である。しかし、本校で社会科学を担当する立場からすれば、私にとって研究室は世界そのもの、時代そのものである。とりわけある時代を支配した思想と体制が内側から崩れるとともに、近現代によって追いつめられた地球がその存続の道を失いかげ、しかも新たに生みだすべき価値、文明の有様がいまだはっきりとした表象を世界に映じていない今日、必要とされるのは「全体性の哲学」の復権とも思われるからである。

言うまでもなく私は哲学の学徒ではないし、デカルト的な「客観性」への拝跪も望むべくもない。あえて言えば、事象(ファクト)の重量と変移、離脱と対峙等が支配する時空に、主意主義的な観照の生誕から死滅までの道程を、社会という実験室の中で、経済的事象を手懸りにしてシミュレーションしているだけなのかもしれない。

「市場経済」といっても、管理、誘導、操作によって「法則性」を記号化しているにすぎないし、「国民国家」といっても、その擬制性がかつて支えていた諸記号は、現実から剥離を続けている。

倨傲との誇りをおそれずと言うならば、学知なるものの退嬰をどこまで自らのものとし、かつ超えていくことができるか、それが私の当面のテーマである。

倨傲との誇りをおそれずと言うならば、学知なるものの退嬰をどこまで自らのものとし、かつ超えていくことができるか、それが私の当面のテーマである。

井田 智子(副手)



4年間の学生生活が終わり、この春より本学教職員一年生(化学第一教室)となりました。毎日があわただしく、やりたい事の半分もできないまま過ぎて行きます。まだまだ未熟で、先生方、職員の皆様にご教壇に頂くことばかりですが、何卒よろしくお願ひ致します。

箕浦 克彦(副手)



本年度4月より、NMR室のオペレーターとして働くこととなりました箕浦と申します。学生の時は微生物が産生する酵素タンパクの精製をしていましたが、NMRについては未経験なので、これから一生懸命がんばろうと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



教育研究費予算について

研究委員長 石田 寿昌
教授

限られた資金の枠の中で効率的／効果的に教育研究活動を進めるためにはその予算管理が必要不可欠であるとの認識から、本年度以降の教育研究費に予算制度が導入されました。それに伴い、すこしでも資金をより有効に活用できるよう、その配分並びに利用方法を以下のように変更しました。まず、従来の教育研究費を研究機器購入費と一般教育研究費の2つに分け、それぞれを独立予算として取り扱うことにしました。また、これらの資金は次年度へ繰越せることとし、さらに一般教育研究費の残金の一部は共同利用研究機器購入費として組み入れて使用できるようにしました。もう

一つの独立予算として私学助成大型機器購入費を設けました。これは次年度の私学助成申請機器購入に必要な資金を確保するため、本年度は「細胞自動解析システム(総額3750万円)」を申請することになりました。

一方、教育研究活動に最も必要度が高いと考えられる共同利用研究機器および私学助成大型機器購入の選定ならびに既存の共同利用機器の維持運営を考えるため、従来からの研究委員会とは別に、大型共同機器整備計画委員会を新たに発足させました。この様に、組織ならびに資金運用の変更により、本学の教育研究活動が今まで以上に活発になるよう期待する次第です。

平成4年度学校法人予算および予算制度について

去る平成4年3月24日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成4年度予算が審議のうえ承認されたので、消費収支予算書総括表を掲載し、その概要を説明することとした。

(消費収入の部)

平成4年度における帰属収入の合計は、前年度比2億4953万円減の20億9530万円となっている。この収入減は主として資産運用収入の減と補助金の減によるもので、特に資産運用収入については、土地取得(平成4年3月)に伴う預金の取崩しによる受取利息の減を計上した為である。

また、基本金組入額の合計が前年度比10億328万円増の15億1428万円となっているのは、土地取得に伴う組入れを13億円計上した為である。

(消費支出の部)

平成4年度における消費支出の合計は、前年度比2億2713万円増の21億4274万円となっている。この支出

増は主として借入金等利息の増によるもので、土地取得に伴う借入金の支払利息を2億6千万円計上した為である。

さて、予算制度の必要性については既に十分御理解をいただいていることではあるが、より認識を深めていただく意味に於いて次の通り申し添えたい。

学校法人の資金源泉の主要なものは学生納付金であり、もう一つは国・地方公共団体等からの補助金である。このことは学校法人の資金源泉が極めて公共性の高いものであることを意味しており、それ故に学校法人に対しての免税措置とか、資産運用収入に対する課税の対象外の措置がとられているのである。

学校法人の財政の特徴は、収入・支出ともに固定的で弾力性に乏しいことであり、収入・支出の成り行き管理は許されないのである。即ち、収入・支出ともに予算をたてその段階で前もって計画しておくことが必要である。収入・支出は予算の上では均衡させておくこと、そして教育・研究はその予算に基づいて予算の

平成4年度消費収支予算書総括表

平成4年4月1日から
平成5年3月31日まで

消費収入の部 (単位円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(△)
学生納付金	1,621,600,000	1,538,100,000	83,500,000
手数料	77,000,000	94,700,000	△ 17,700,000
補助金	326,200,000	380,200,000	△ 54,000,000
資産運用収入	30,000,000	270,000,000	△ 240,000,000
事業収入	8,700,000	12,220,000	△ 3,520,000
雑収入	31,800,000	49,610,000	△ 17,810,000
帰属収入合計	2,095,300,000	2,344,830,000	△ 249,530,000
基本金組入額合計	△1,514,280,000	△ 511,000,000	△1,003,280,000
消費収入の部合計	581,020,000	1,833,830,000	△1,252,810,000

消費支出の部 (単位円)			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減(△)
人件費	1,267,000,000	1,271,100,000	△ 4,100,000
教育研究経費	501,670,000	539,210,000	△ 37,540,000
管理経費	71,750,000	61,750,000	10,000,000
借入金等利息	272,320,000	13,550,000	258,770,000
[予備費]	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	2,142,740,000	1,915,610,000	227,130,000
当年度消費支出超過額	1,561,720,000	81,780,000	
前年度繰越消費収入超過額	0	511,500,000	
前年度繰越消費支出超過額	651,580,000	0	
翌年度繰越消費収入超過額	0	429,720,000	
翌年度繰越消費支出超過額	2,213,300,000	0	

範囲内で実施すること、それが実現されることにより教育・研究の維持、継続が可能となるのである。

また、学校法人はいくつかの多様な目標や計画をもっているが、それらの組み合わせの中から最大の効果が発揮できるように計画を選択し、それに応じた資金の配分を適切に行うことが肝要である。

このように事業計画と財政の調和が求められ長期的な観点からも、予算制度は必須である。このことは換言すれば、いかに効率よく支出するかということであり、資金運用上の責任についても事後の承認ではなく、予め収入や支出の権限や、責任の範囲を具体的に明確にしておく制度を確立することである。

(事務局長 河野 光次)

岡本 彰氏 (本学昭和31年卒)
「藍綬褒章」受章



元学校法人監事 岡本彰氏 (本学昭和31年卒、同窓会相談役、大阪府薬剤師会会長) には産業の振興や医療・教育・社会福祉などに尽くした人に贈られる「藍綬褒章」を受章されました。

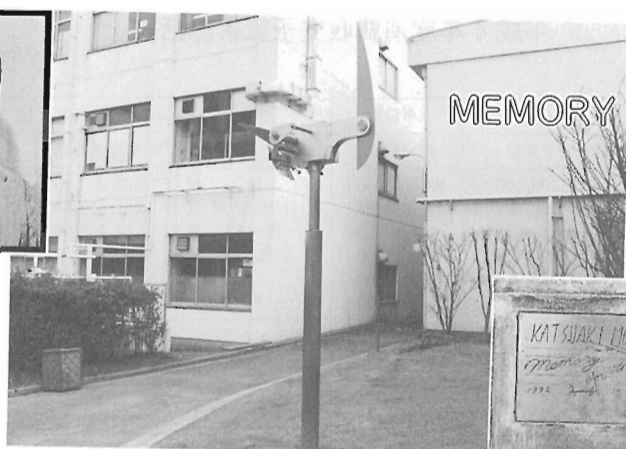
(平成4年4月29日付)

心よりお祝い申し上げますと共に、今後ともますますご多幸でご活躍のほどをお祈り致します。





故森坂勝昭教授



MEMORY ON THE WIND



故 森坂勝昭教授の モニュメントについて

時の経つのは早いもので、本学第二薬剤学教室教授森坂勝昭先生が亡くなられて丸2年が過ぎました。かねて森坂先生のご令室森坂尚子様から、本学に森坂先生の在任を記念する「モニュメント」を設置させて頂けないかとお申し出があり、本学としては喜んでお受けすることとし、昨年その旨ご返事申し上げました。その後本年になってモニュメントの作品が完成したとの通知があり、去る2月3日に体育館前の中庭に一応の設置工事を完了致しました。そして3月27日午前10時半から第二薬剤学教室の主催でモニュメントの設置式を行いました。

当日は小雨の降る肌寒い日で、しかも私鉄総連の11年ぶりのラッシュアワーに及ぶ本格的なストライキも重なり参加者が少ないのではないかと危ぶまれましたが、久保田晴寿学長、森坂尚子様、モニュメント作製者渡辺先生はじめ本学教職員、学生の多数のご参集がありました。

先ず始めに久保田学長と森坂尚子様とによるテープカットがあり、次に渡辺先生のモニュメント製作意図のご説明がありました。ついで久保田学長と森坂尚子様のご挨拶があり、約40分ほどで式は滞りなく終わりました。式にご参集頂きました教職員、学生各位には、ここに改めて御礼申し上げます。

モニュメントは、“MEMORY ON THE WIND”と題された1000×1400×800mmの大きさの作品で、アルミ、ステンレス、真鍮、銅からなり、地上2500mmのホール上に設置されています。これは、前方に回転翼、後方に垂直直翼を持ち、風の力を利用して音的に数種のメロディーを奏でる「音の出る動く彫刻」で、ホ

ールの下にはモニュメントの表題と森坂勝昭先生、および製作者の名前を刻んだ銘版が置かれています。

ご存命中の森坂先生をご存知の方は、このモニュメントを眺め、奏でる音を聴いて在りし日の先生の追憶に浸られてもよく、ご存知でない方は、設置の由来などとは離れて優雅に回る回転翼を眺め、奏でる音を聴いて心の安らぎを得られてもよいと思われ、本学はその長い歴史の割には、彫塑、絵画その他いわゆる「実用に供さない」ものがきわめて少ない大学のように思われます。このモニュメントが本学のこのような風景を少しでも改善できればと願っております。

(記 教授 掛見正郎)

春沢信哉助教授「奨励賞」受賞



日本薬学会近畿支部では平成3年度から「奨励賞」を設立した。第1回の今回、有機化学学会より、春沢助教授が同賞を受賞された。

受賞研究

環状チオノカーボネートの [3,3] シグマトロピー転位一環拡大反応—Yellow Scale Phenomone の合成研究

授賞式は1月10日、からすま京都ホテルで行われ、先生の特別講演は本年秋、京都薬科大学での第42回日本薬学会近畿支部大会で行われることになっている。



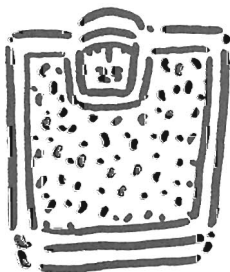
「隠れ肥満」の防止のために

教授 望 月 伸 三 郎

ここ1～2年のうちに「隠れ肥満」という言葉を耳にすることが多くなった。これは身長と体重から見る厚生省の基準〔(身長-100)×0.9〕の肥満ではなく、体脂肪率による肥満の判定基準値の見方である。体脂肪率を測るには普通の体重計と水中体重計とで測定される(手軽に測ることができないのが難点)。この脂肪率では成人男性は16%以下、成人女性は25%以下が正常値とされている。

'91.8.23の産経新聞・「健康」欄はいう。『その女性は身長155cm、体重48kg。体重は標準体重以下だったが、体脂肪率を測ってみると26.1%で肥満の判定だった。女性は減量指導を受けた。1日2640 Kcalとっていた食事を1800 Kcalに。同時に週2回、マシンと流水プールで流れに逆らって歩く運動を繰り返した。3ヶ月後、体重は1kgも減らないのに体脂肪率は23.5%に落ちていた。体内の脂肪が食事制限と運動によって筋肉に変わったのです。体脂肪率が高いことの怖さは、内臓に脂肪がついている場合が多いことだ。これが脂肪肝、動脈硬化などの成人病を引き起こすことになる。』

日本人には見かけは大して太っていないものの、実は脂肪率の高い「隠れ肥満」が多いと言われている。極端な食事制限は体重とともに筋肉も一緒に落ち、体脂肪率が増えて外形より理論上“太った”ことになるという。



体内の脂肪が増える原因は第一に運動不足。また同じ炭水化物でも、澱粉より糖分の取り過ぎが良くないことが、実験で解っている。女性より男性に付きやすいことから、性ホルモンの影響もあるといわれる。ただ、体内脂肪はスポーツやカロリー制限をすれば皮下脂肪より簡単に減らせるようである。

30歳過ぎる頃から筋肉量は段々減り、脂肪は増える。その傾向が現代の極端なまでの運動不足で一層加速されている。自動車、バイク、エスカレーター、エレベーターは身体の活動を奪い、TV、VTRなどゲーム機器とともに身体活動の機会を減じている。

10～20歳代の時に身体を動かす生活習慣を身につけることが機能の衰えを遅くし、若さを保つ秘訣であり、成人病の予防に役立つ。日常は出来る限り乗り物は避け、階段を登る習慣にすることが40歳を過ぎる頃から大きな“差”を生む。習慣というのは半年や1年ではなかなか身につかないから「今」が大切である。勉強も運動も習慣となるまでは意識してやるのがポイントであろう。

薬剤師として 初の「医療功労賞」受賞！

巖峨(畑中)千代子氏(66)(本学の前身である「帝國女子薬学専門学校」昭和21年卒)は、平成4年3月薬剤師として全国初の「第20回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生省など後援)を受賞された。同賞は地域医療に尽くされた方に贈られるもので、延べ44年に及ぶ病院薬剤師(大阪府立病院に始まり、現在も東大阪市・蛇草診療所に勤務中)としての多大の貢献が認められたものである。

教育雑感

教授 土井 勝



限りないボーダレス化の進行という嵐が、来るべき新世紀をはさんで今地球上に吹き荒れている。この嵐は政治、経済、文化のあらゆる分野を巻き込み、大学とても免れえない（大学設置基準の改訂の骨子となった大

綱化、多様化等はこの視点から理解できる）。既成の枠組みが取り払われ、知識の量ではなく知識の質とそれらを統合し再構築する能力（考える力）が問われる時代である。この事実を真摯に受けとめ、これに沿った努力をする事が、社会に対して教育と研究の任を負っている大学の責務である。

新入生の学力低下が騒かれるようになって久しい。人によって把握に違いはあろうが、私には特に考える力や自発性の不足が目につく。この原因は、本質的には現下の教育体制、すなわち、知識の量ばかりを性急に問うてきた項目主義的教育と世にはびこる受験体制にあることは無論である。こうした能力というのは、分野を問わず人間として生きていく上で必須であろう。大学教育に普遍的に求められるのもこれの涵養であり、ひいては独り立ちできる人間の育成である。これは速成出来るものではなく、教える側に手間と隙を、学ぶ側には自分の頭で考えるという苦しい努力を強いる。これは一見教育の非効率化をもたらすように思えるが、私の乏しい経験からすれば、無駄な回り道と思える勉強が将来必ず役立つものであり、また理解を深めたり人間としての幅や知恵を形成する。

本学は薬学の職能教育を使命として負っている。しかし、薬学が医療、衛生、環境問題を通じて人間と深く係わるからこそ、いやしくも高度な薬学教育を目指す本学では、より高い視点に立った全人格教育を目指すべきであろう。本学で新カリキュラムが発足して2年を経たが、改訂の方向が果たして以上のような社会動向や学生の学力分析さらには本学の掲げるべき理念を視野に入れてなされたものであったかどうかは、私

には甚だ疑わしい。今後我々は一体何をなすべきかを改めて熟慮する事が、本学の建学の理念や将来とも絡んで、本学構成員全員に今強く求められている。

何人もその人の理想や経験に裏打ちされた独自の教育観を持っており、以上は未熟な私の管見にすぎない。御批判を乞う。（平成4年3月28日）

卒業式に思う

助教授 濱中 久美子



昨今卒業式というと、男性は肯広、女性は和服が多い。着物は優美な伝統である。男女を問わず愛用すればよい。このまま廃れてゆくのは残念である。和服は高価だとよく言われるが、余裕がなければ新品や豪華な振袖を着ることはない。祖父母や両親の若い頃の着物に、たとえば現代的な華やかな色彩の小物などを合わせればどうだろう。元々着物は染めかえ、仕立て直しながら、一生を通して、時には数代にわたって着続けられたのである。良い思い出になるだろう。私事だが、昔、外国の友が永い別れの記念にと、丁度その時首に巻いていたスカーフを贈ってくれたことがある。私は今もそのスカーフを身につけるたびに、彼女を懐かしく思い出す。洋の東西を問わず、互いの衣服や持物を交換し、友情や恋の証しとしたり、亡き人の思い出と回向のために身につけていたものを形見として贈るようである。和服に籠められてきた雅やかな心情や心意気が忘れ去られ、全てをお金で計るという風潮はわびしい。

ところで今年の卒業式には、数人のチマ・チョゴリを着た女性が見うけられた。本学でははじめてではないだろうか。昨今、日本の朝鮮半島をはじめとするアジアの人々に対する差別や人権侵害が問題となっている。彼女らの伝統の民族衣装はこれに対する抵抗の意思表示であろうか。いずれにせよ差別に負けぬ、自由な意志の証しであろう。共に新しい門出を喜びたい。

卒業式

平成4年3月21日(土)、第39回学部卒業式並びに第16回大学院修了式(学部291名、大学院修了生19名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。

入学式

平成4年4月9日(木)、平成4年度学部並びに大学院入学式(学部入学生344名、大学院博士前期課程35名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。



写真提供：旅行写真部



薬剤師国家試験の結果について

本年度春に施行された薬剤師国家試験の成績は次の通りであった。

◎薬剤師国家試験

第77回(平成4.4.2~4.3施行, 4.27発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
337名	228名	67.66%	71.76%
(290名)	(204名)	(70.34%)	(78.54%)

※(内は、新卒者(平成4年3月卒業)の数値を示す。参考として過去5年間の薬剤師国家試験の成績を記載する。

薬剤師国家試験合格状況(過去5年)

年(回)	総合(%)	新卒(%)	その他(%)
昭和63(73)	87.94	91.81	52.00
	86.65	89.72	51.19
平成元(74)	89.62	92.75	59.26
	85.40	89.72	55.60
平成2(75)	86.35	89.59	60.71
	86.65	90.62	59.32
平成3(76)	84.54	87.54	53.57
	81.35	86.35	45.62
平成4(77)	67.66	70.34	51.06
	73.48	80.17	40.61

※上段は本学。下段は私立薬系大の平均の数値を示す。

教務課だより

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
大学生活に少しは馴れたと思いますが、これからは本気で自分の将来を考えて、目的に向かって4年間を有意義に送って頂きたいと思います。

その為には毎日学校に来て講義を受けて下さい。また連絡は全て掲示で行いますので、毎日必ず掲示板を見て、見落しのない様注意願います。

平成4年度のカリキュラムについて

平成3年11月18日及び平成4年2月19日に、学期、学科履修規程の一部が改正され、各学年でカリキュラムが多少異なるのでその相違について説明します。

[全学年]

従来、卒業するには「薬学士」と称することができる称号として認められていたが、今後は「学士(薬学)」の学位を授与することとなった。

[1年次生]

・試験制度

定期試験、追試験、特別再試験

・進級

全ての科目は半期(前期又は後期)で終了し、期末に定期試験を行い、その科目の合否が決定する。後期の定期試験終了時に、1年次から3年次までの各年次において、その年次までに課せられた科目のうち、単位未修得科目が13科目以下のとき、次年次へ進級することができる。但し、専門科目の選択科目は進級査定の対象科目とはならない。

[2, 3年次生]

・試験制度

定期試験、追試験、特別再試験

・進級

科目には半期(前期又は後期)科目と、通年(前期・後期又は後期・前期の1年間)科目があり、半期の科目はその科目の期末の定期試験で、通年の科目は2回の定期試験の平均で合否が判定され、2年次から3年次までの各年次において、その年次までに課せられた科目のうち単位未修得科目が5科目以下のとき次年

次へ進級することができる。進級査定の対象科目については1年次生と同様である。

尚、1～3年次生が4年次へ進級するときは、単位未修得科目が13科目あるいは5科目以下であるが、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目は3年次後期の定期試験終了時まで、卒業に必要な単位数を修得することが条件である。

[4年次生]

・試験制度

定期試験、再試験、特別再試験

・卒業

試験方法は2・3年次生と同様で、後期の定期試験終了時に卒業に必要な単位を全て修得していれば卒業となり、卒業に必要な科目のうち、単位未修得科目が4科目以下のとき、特別再試験を受験することができ、この未修得科目の単位を修得すれば卒業となる。

(記 前教務課長 伊藤美雄)

平成4年度

大学院博士前期(修士)課程入学試験結果

平成4年度大学院博士前期(修士)課程入学試験の実施状況とその結果は次のとおりであった。

募集人員 約16名
出願期間 平成3年9月17日～9月30日
学力試験日 10月7日
合格発表日 10月12日
志願者 41名 [男子37(学外2)
女子4(学外1)]
合格者 32名 [男子29, 女子3]

(二次募集)

募集人員 若干名
出願期間 平成4年2月12日～2月15日
学力試験日 2月26日
合格発表日 2月29日
志願者 3名(男子)
合格者 3名

図書館だより



① 最近の主な入荷資料

<人文・社会・芸術・スポーツ・文学関係>

シンデレラコンプレックス, パーフェクトウーマン, マンガ日本の歴史, 世界の見方考え方, パワーシフト, 学校に背を向ける子ども, 大学への期待 (日本教育の課題), 大学教授になる方法, 育児休業法, とほほのほ, アメリカンヒーロー, NHKフィレンツェルネサンス, ウイダートレーニングバイブル, 生きている心臓, 論文作法

<自然科学関係>

化学者のための最新NMR解説, 有機合成を変えた遷移金属, 延命病棟, 病院で死ぬということ, 医の心, 現代医療の道徳的ディレンマ, NHKアインシュタインロマン, DDS技術の進歩, 生殖革命, 海と地球環境, 地球を救え, 不妊 (いま何が行われているのか), プロスタグランジンの新しい話題, アメリカの医療と看護その光と影, 医薬情報担当者営業マニュアル, いま脳死をどう考えるか, 死体は語る, 院内感染, 糖尿列島

<AV資料関係>

Audio : 実用英語講座 (1・準1・2・3級クラス)
Visual : こんな大学教授はクビにせよ!, 実験動物の取扱い (イヌ, ネコ編), ライン河空の旅, フルトウエングラーその生涯の秘密, 組換えDNA実験の実際

<寄贈図書>

「女房が呉れたノーベル賞 (水虫の特効薬にかけた男の物語)」(二見書房) 高岡洋五氏著 (昭和43年卒)

② 館外貸出基準の一部改正 ('92. 4. 1より)

- 一般図書: 教職員必要冊数 1 か月 → 1 週間 (変更)
- AV資料: 全員 2 本・1 週間 (追加)
- 文庫本: 全員 3 冊・1 週間 (追加)
- 新着学術雑誌: 到着後 3 日間貸出禁止 (追加)
- 外来者: すべての資料貸出不可 (追加)

③ コピー料金 (学生) の改訂

'92. 4. 1より図書館サービス向上の一環として, コピー料金 (学生) を一枚15円から10円とした。(コピーは図書館資料に限る。) 但しコピー申込により発生する著作権に関する一切の責任は申込者本人が負うものとする。(なお, 料金納付方式は従来どおりで, 経理課発行の証紙を申込書に貼付する。)

④ 現行の図書館サービス

- 図書 (私費分) の割引購入 (入荷は多少遅れる。)
- 文献の相互貸借 (図書館専用ファックスで大学や企業へ依頼, 通常1週間程度で到着する。)
- オンライン情報サービス (STN やJOIS等を利用している。)
- コピーサービス (現在3機種保有している。1枚10円)
- 学術雑誌目録 (欧文, 和文編) の発行 (約2年に1



回)

- 増加図書目録 (AV資料・寄贈リストを含む) の発行 (4・8・12月の年3回)

⑤ 図書館利用上のマナー

学生諸君が最も利用している第2閲覧室(2F:自然科学系図書や辞典類を所蔵)の図書の配列の乱れが目立つ。これは利用者が希望する本を即座に正確に見つけ出す大きな障害となり、利用者に変な迷惑をかけることになる。閲覧者がいつでも自由に利用しやすいように、また本へのイメージが次々とふくらんでいくように「開架式書架」を採用している意味を考えてほしい。手にとった本は必ず所定の書棚へ返却するように心がけてほしい。また残念なことだが長期貸出しにより本を独占している不心得者が若干いる。いうまでもなく図書館の本は利用者全員の共有財産であることを忘れないでほしい。



⑥ ロッカーの整備完了

毎年9月・1月・2月のテスト期になると、閲覧室を中心として入館者が激増する。そのため図書館入口の空きロッカー数が不足気味で学生諸君に不便をかけていた。このたび不良ロッカーの部分入替を完了したので、多少は緩和されるものと思う。

ただし、当ロッカーはあくまでも「入館時限定使用」であるので、キーを常時携帯したりロッカーを独占使用することは厳禁とする。

図書の長期貸出しとともに利用者のモラルに期待したい。



⑦ 新規購入雑誌など

- '92年より新規購入: Journal of Computational Chemistry
- '91年限りで購入中止: International Pharmacy Journal
- 誌名変更: Agricultural and Biological Chemistry → Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry
Drug Design and Delivery → Drug Design and Discovery

⑧ 「薬図協」地区協議会の主催

6月18日～19日の2日にわたり、ホテル大阪ガーデンパレスにおいて平成4年度日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国地区協議会(会員は大学14館、製薬会社21館の35館)が本学図書館を幹事館として開催される。定期総会に始まり、講演会、懇親会、研究会と多彩なプログラムが予定されている。

⑨ '91年主な業務統計(平成4年3月31日現在)

- 入館者数 13,645人
(学生 11,017・教職員 2,533・外来者 95)
- 貸出冊数 5,218冊
(学生 3,374・教職員 1,844)
- 蔵書数 56,091冊
(和 31,452・洋 24,639)
- 受入雑誌数 420誌
(和 190・洋 230)

(記 前図書課長 高橋正好)

学生課だより

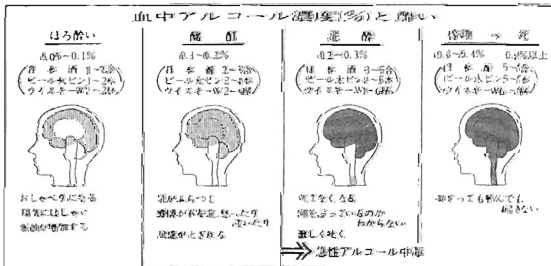
◎琴寄贈に対し感謝状贈呈



昭和46年より20余年の長きにわたり、学友会箏曲部の指導をしていただいております明石一枝先生(堺市)より、平成4年3月19日に琴十面および附属品一式が寄贈されました。

この御厚情に対し、平成4年4月8日学長室において、箏曲部の顧問である森教授、松村(瑛)助教授の立会いのもと、久保田学長より明石先生へ感謝状および記念品の贈呈が行われ、謝辞がのべられた。

◎飲酒について



(産経新聞 '92.4.17より)

昨年10月25日、読売新聞「泉」のコーナーに、東大阪市の会社役員の方の「息子の死が無駄になってほしくない」という便りが、掲載されました。

簡単に紹介しますと、大学1年生の息子さんが、クラブのコンパで、一気飲みにより、致死量のアルコールを一度に飲んだのが原因で「急性アルコール中毒不全」で死亡されたそうです。

「酒の知識に乏しく、生命の危険な状態も判断できないものが、多量に飲酒すれば死者は続出します。

どうか、一気飲みの犠牲者をこれ以上出さないでほしい」という悲痛な訴えである。

本学でも昨年5月、新入生歓迎会(五月祭)において、急性アルコール中毒による入院騒ぎがありました。このことをふまえ、11月に開催された大祭祭においては、外部からのアルコール類の持ち込み禁止、販売はビールおよびビールと同程度のアルコール度のチュウハイのみに制限しました。それにより、学生諸君からは、盛り上がりには欠けた、という声も届いています。しかし、人の命にかかわるような、酒の飲み方、飲ませ方は「生命を守る」という薬学を学ぶ者の使命とは、相反するものであります。

どうか、先に掲げた親や家族の無念さを思い、薬学生としての自覚をもち、節度ある飲酒を心掛けるよう留意して下さい。

◎学生部長会の主催を終えて

平成3年12月6日、日本私立薬科大学協会第11回学生部長会がホテル大阪ガーデンパレスで開催された。

本学が委員長校であり、加盟29校のうち参加校24校、出席者46名であった。

本会の運営は、稲森学生部長が座長となり進行した。先ず、来年度の委員長校の選出後、下記の承合事項について、提出校より提案理由を説明した後、内容の集計結果を紹介し、各校から現状についての補足説明が行われた。

<承合事項>

1. 学生証について
2. 自動車の迷惑駐車対策について
3. 学内での飲酒問題について
4. 学内での盗難の処理について

この後、東京薬大より、「薬学生の意識調査の実施についての」の提案があった。主旨の説明後、各校より意見の交換が行われたが、決定するに至らず、本会議の意見を基盤に、来年度再検討することになった。

(記 学生課長 井頭八郎)



貧 血

1. 貧血とは

血液の総量に不足はないが、酸素を運ぶ役目をする赤血球の色素が減少した状態を「貧血」という。

即ち、薄い血液が体内を流れているのである。

赤血球数は健康な男子の場合約500万、女子は約450万で300万以下は貧血である。色素の量は男子約16、女子約14で10以下になると病的症状がおこる。

2. 症 状

- 顔色が悪く、皮膚は蒼白になる。
- 動悸、息切れ、耳鳴り、めまいなどがおこる。
- 体は脱力し、眠気を感じる。
- 精神が痴鈍になり、イライラする。
- 末梢神経がおかされ、手足の指先がしびれる。
- 髪に艶がなくなる。

3. 種 類

○ 鉄欠乏性貧血

体内の鉄分が欠乏することによりおこるもので、貧

血の中で一番多い。

○ 再生不良性貧血

赤血球は骨髄で作られるが、その機能が低下することによりおこる。

○ 溶血性貧血

赤血球が何らかの理由で早く壊れることによりおこる。

○ 脳貧血

一時的に脳の血液の巡りが悪くなることによりおこる。

4. 治 療

○ 鉄欠乏性の貧血の場合

鉄剤を服薬すれば、自覚症状が消失し回復する。

○ 重症の貧血の場合

輸液、輸血をしながら原因療法をする。

○ その他

白血球、紫斑病などの血液病もあり皮膚ばかりでなく口内からも出血などがおこり、細菌の感染もうけやすく、予後不良になることもある。

5. 予防と対策

◎ 食生活のバランスに気をつける。

○ 加工食品は避け、外食の機会を少なくする。

○ 朝食に牛乳1本でも飲む習慣をつける。

○ 鉄分、良質のたん白質、ビタミンCなどを多く含ん

平成3年度保健室利用状況

(利用者)

(人)

(利用内容)

(件)

区 分	学 生	教職員	その他	小 計
4 月	89	50	2	141
5 月	179	72	0	251
6 月	194	49	0	243
7 月	146	44	0	190
8 月	43	11	0	54
9 月	125	45	0	170
10 月	115	82	0	197
11 月	108	75	0	183
12 月	82	76	0	158
1 月	27	54	0	81
2 月	47	72	2	121
3 月	60	70	0	130
合 計	1,215	700	4	1,919

区 分	外科系 疾 患	内科系 疾 患	保健指導 健康相談	休 養	転 送	小 計
4 月	26	90	61	6	10	193
5 月	45	158	83	11	14	311
6 月	48	156	78	4	4	290
7 月	38	123	75	3	10	249
8 月	3	39	19	0	2	63
9 月	26	116	62	2	9	215
10 月	61	112	77	5	4	259
11 月	50	112	72	3	8	245
12 月	44	100	62	4	5	215
1 月	15	53	38	2	3	111
2 月	23	77	59	2	5	166
3 月	27	82	68	2	7	186
合 計	406	1,218	754	44	81	2,503

だ食品を毎日必ず食べる。

★鉄分を多く含む食品

豚レバー、鶏レバー、牛レバー、しじみ、あさり
大豆、ほうれん草、ひじき、のり、こんぶなど

★たん白質の多い食品

肉類、魚介類、卵、牛乳、チーズなど動物性の食品から栄養素をとる。

★ビタミンCを多く含む食品

いちご、みかん、グレープフルーツ、ほうれん草、
キャベツ、ピーマン、トマトなど新鮮な野菜（葉酸）をたっぷり食べる。

◎生活のリズムを大切にす。

○不規則な生活をやめ十分な睡眠をとる。

○疲労はその日の内に回復する。

○ストレスは早い目に解消する。

○自分に合った運動を毎日行う。

最後に過度のダイエットによる栄養不良、栄養障害のための貧血にならないよう、いろいろの食品、栄養素をしっかり食べて美しくスリムになってほしいと思う。

6. その他

① 貧血改善に役立つ惣菜

○レバーの甘辛煮（土しょうが入り）

味を濃い目につけ保存食にして、おべんとうのおかずにもする。

○さつまいもの白和え（にんじんの拍子切り、さやいんげん入り）

白ごまをいってすり鉢ですり、食べる直前に和える

○チンゲン菜のミルク煮（短冊切りハム入り）

牛乳のかわりにスキムミルクを使ってもおいしい

○小松菜のそぼろ（紅しょうが、青ねぎ入り）

別に卵そぼろをつくり、サラダ菜に包んでもおいしい。

② 簡単にできる朝食の一品

○ハムトーストの卵のせ（クレソン付）と牛乳

○スライスチーズの野菜巻きとクロワッサン、ヨーグルトのジャムのせ

○野菜入りクラッカーとミニトマト、ミルクセーキ

（記 保健婦 福島笑子）

研究助成金採択者

平成3年度勸上原記念生命科学財団

◎研究助成金 石田寿昌教授（第二物理化学教室），
他 500万円

タンパク質合成開始因子IF-4EのmRNA
Aキャップ構造認識機構の構造解析と抗インフル
エンザウイルス薬の開発

◎研究奨励金 松村靖夫助教（第一薬理学教室）
200万円

血管内皮細胞におけるエンドセリン-1の産
生機構

平成4年度勸日本科学協会

◎笹川科学研究助成金 北谷典丈(M2)（第二微生物学教室） 79万円

MHC表現変異株細胞を用いたウイルス抗原提示機構の研究

平成4年度学友会執行委員会

執行委員長	中村 隆③	〔グループAPO〕 薬学研究部
副執行委員長	井上 優③	〔硬式庭球部〕
〃	永柳 京子③	〔上方落語研究部〕
総務局長	小松佐和子③	〔フォークソング部〕
副局長	本岡 伸介②	〔柔道部〕
書記	原 寿子③	〔バドミントン部〕
庶務	斎藤夫早子③	〔E.S.S.部〕
渉外局長	上江田幸晴③	〔軟式庭球部〕
副局長	上田 充利②	〔旅行写真部〕
広報局長	坂本 紀子③	〔茶道部〕
副局長	山本 知子③	〔茶道部〕
〃	菊地 貴弘②	〔卓球部〕
厚生局長	中井 禎③	〔サッカー部〕
副局長	水迫 美穂③	〔剣道部〕
体育局長	中村 薫②	〔フィールドウォー ーカーズ部〕
文化局長	岡本 佳子③	〔放送部〕

法人新理事長・就任

平成4年2月17日の理事会において岡本道雄理事長
辞任に伴う後任の理事長に、選挙の結果、大村栄之助
理事が新理事長に選出された。

人事異動

名誉教授発令 (平成4年4月1日)

山口 秀夫

酒井 清

就職部長発令 (平成4年4月1日)

栗原 拓史 (教授)

図書館長発令 (平成4年4月1日)

沼田 敦 (教授)

寮監発令 (平成4年4月1日)

坂田 勝治 (教授)

研究委員長発令 (平成4年4月1日)

石田 寿昌 (教授)

実験動物センター所長発令 (平成4年4月1日)

掛見 正郎 (教授)

助教授発令 (平成4年4月1日)

松村 靖夫 (第一薬理学教室)

藤本 陽子 (第一衛生化学教室)

辻坊 裕 (第一微生物学教室)

助手発令 (平成4年4月1日)

阿部 真弓 (第一生薬学教室)

近藤由貴代 (第二薬化学教室)

樽井麻里子 (第一物理化学教室)

豊元 操 (第二生化学教室)

福井美有紀 (第一薬剤学教室)

宮原 直子 (第一放射薬品学教室)

友尾 幸司 (第二物理化学教室・新採用)

藤井 忍 (第一生化学教室・新採用)

副手発令 (平成4年4月1日)

井田 智子 (化学第一教室・新採用)

箕浦 克彦 (NMR室・新採用)

事務局長発令 (平成4年5月1日)

河野 光次 (法人事務局次長)

嘱託発令 (平成4年4月1日)

井上 正敏 (教授)

曾根 節子 (助教授)

藤井 司郎 (経理課長)

神田 吉秋 (学生課係長)

山田 敏子 (事務職員)

配置換発令 (平成4年4月1日)

宇佐美吉英 (第一薬化学教室・NMR室より)

(平成4年4月30日)

森本 武司 (施設課長・庶務課長より)

村上 昭 (図書課長兼資料室長・施設課
長より)

伊藤 美雄 (庶務課長・教務課長より)

高橋 正好 (教務課長・図書課長より)

退任 (平成4年3月31日)

森 逸男教授・就職部長 (任期満了につき)

保坂康弘教授・図書館長 (任期満了につき)

望月伸三郎教授・寮監 (任期満了につき)

千熊正彦教授・研究委員長
(任期満了につき)

玄番宗一教授・実験動物センター所長
(任期満了につき)

退職 (平成4年1月31日)

中谷 恵美助手 (第二薬剤学教室)

(平成4年3月31日)

井上 正敏教授 (第一物理化学教室)

銘田 美樹助手 (第一生化学教室)

堤 あゆみ助手 (第一薬剤学教室)

高田多美江助手 (第一薬化学教室)

高岡 義和助手 (化学第一教室)

加福やよい助手 (第二物理化学教室)

神田 吉秋 (学生課係長)

山田 敏子 (事務職員)

北村美智代 (事務職員)

田口 愛子 (事務職員)

解嘱 (平成4年3月31日)

山口秀夫教授 (第二薬化学教室)

酒井 清教授 (第一薬剤学教室)

吉野 幸夫 (事務局長)

海外留学 (平成4年4月25日～平成5年3月6日)

森本 一洋助教授 (第二薬剤学教室)

留学先：Prof. Vincent H. L. Lee, Univer-
sity of Southern California, John Stau-
ffer Pharmaceutical Sciences Center

研究テーマ：ペプチド性医薬品の吸収及
びデリバリーに関する研究

平成4年度
各部・委員会・委員一覧

◎は各部署の長
(平成4年5月1日現在)

教務部 ◎田中 千秋(教授)
三野 芳紀(助教授) 藤田 芳一(助教授)

学生部 ◎稲森 善彦(教授)
望月伸三郎(教授) 有本 正生(助教授)
濱中久美子(助教授) 松村 靖夫(助教授)
辻坊 裕(助教授)

就職部 ◎栗原 拓史(教授)
中元 安雄(助教授) 木村捷二郎(助教授)

図書館 ◎沼田 敦(教授)
千熊 正彦(教授) 加藤 義春(助教授)
辻坊 裕(助教授)

学生寮 ◎坂田 勝治(教授)
望月伸三郎(教授) 稲森 善彦(教授)
馬場きみ江(助教授) 藤本 陽子(助教授)

薬用植物園 ◎小澤 貢(教授)
草野源次郎(教授) 馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(助教授)

実験動物センター
実験動物センター運営委員会 ◎掛見 正郎(教授)
藤田 直(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)
松村 靖夫(助教授) 安田 正秀(講師)
西野 隆雄(講師)

総務委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授) 栗原 拓史(教授)
稲森 善彦(教授) 河野 光次(事務局長)

施設委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授) 栗原 拓史(教授)
池田 潔(教授) 石田 寿昌(教授)
曾根 節子(助教授) 河野 光次(事務局長)

研究委員会 ◎石田 寿昌(教授)
黒田 和道(講師) 大桃 善朗(講師)

広報委員会 ◎沼田 敦(教授)
三野 芳紀(助教授) 濱中久美子(助教授)
伊藤 美雄(庶務課長) 村上 昭(図書課長
資料室長)

大学史資料委員会 ◎曾根 節子(助教授)

森下 利明(教授) 加藤 義春(助教授)
馬場きみ江(助教授) 河野 光次(事務局長)
伊藤 美雄(庶務課長) 村上 昭(図書課長
資料室長)

公開教育講座委員会 ◎久保田晴寿(学長)
千熊 正彦(教授) 草野源次郎(教授)
掛見 正郎(教授)

R I施設運営委員会 ◎田中 千秋(教授)
森本 史郎(教授) 沼田 敦(教授)
保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)
稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)
千熊 正彦(教授) 草野源次郎(教授)
掛見 正郎(教授) 木村捷二郎(助教授)

排水処理委員会 ◎千熊 正彦(教授)
池田 潔(教授) 西野 隆雄(講師)

動物実験委員会 ◎池田 潔(教授)
藤田 直(教授) 保坂 康弘(教授)
玄番 宗一(教授) 掛見 正郎(教授)
松村 瑛子(助教授) 松村 靖夫(助教授)
安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)
伊藤 美雄(庶務課長)

組換えDNA実験安全委員会 ◎保坂 康弘(教授)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
森下 利明(教授) 池田 潔(教授)
稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)
黒田 和道(講師) 細川 康(学外)
伊藤 美雄(庶務課長)

教育検討委員会 ◎森本 史郎(教授)
田中 千秋(教授) 沼田 敦(教授)
小澤 貢(教授) 藤田 直(教授)
栗原 拓史(教授) 池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授) 坂田 勝治(教授)

医療薬学実習担当委員会 ◎掛見 正郎(教授)
千熊 正彦(教授) 中元 安雄(助教授)
木村捷二郎(助教授) 西野 隆雄(講師)

バイオハザード予防委員会 ◎稲森 善彦(教授)
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

防火対策委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
沼田 敦(教授) 小澤 貢(教授)
栗原 拓史(教授) 稲森 善彦(教授)
曾根 節子(助教授) 河野 光次(事務局長)
伊藤 美雄(庶務課長) 森本 武司(施設課長)
高橋 正好(教務課長) 井頭 八郎(学生課長)

学位授与

博士(医学)(平成4年3月25日付)

第10159号 第二微生物学教室研究生 天野拓之
インフルエンザウイルス粒子表面上のノイラミニ
ターゼスパイクの分布に関する免疫電子顕微鏡的
研究(大阪大学より)

学士(薬学)(平成4年3月21日付)

薬学科 142名 製薬学科 149名 合計 291名

修士(薬学)(平成4年3月21日付)

修第135号 薬化学 藪中英夫
沖繩産ハスノハギリ種子より単離された新リグナ
ンの合成

修第136号 薬化学 本多清二
Dibenzyl γ -butyrolactone lignan の合成研究

修第137号 生薬学 川西 博
セリ科 Cnidium 属植物のクロモン成分に関する
研究

修第138号 生薬学 浜元静子
水可溶塩基性成分に関する研究

修第139号 衛生化学 山本郁男
ウサギ腎皮質におけるプロスタグランジン代謝の
調節因子に関する研究

修第140号 生化学 羽田修二
ウシ臍臓ホスホリパーゼ A₂-Ca²⁺複合体の動的
構造と触媒機構

修第141号 生化学 大蔵直樹
中国マムシ血漿由来ホスホリパーゼ A₂ 阻害タン
パク質の精製と全アミノ酸配列の決定

修第142号 微生物学 中島麻理子
クラス I-MHC, H-2K^b 拘束性インフルエンザウ
イルス NP ペプチドのコア構造の決定

修第143号 微生物学 上本 裕
A型インフルエンザウイルスの Protease activation
mutant (生ワクチン) の開発基礎研究

修第144号 薬剤学 宮崎 誠
サケカルシトニンの鼻粘膜吸収に及ぼす酵素バリ
アーに関する基礎的研究

修第145号 薬剤学 東島秀樹
高純度不飽和脂肪酸による薬物の皮膚透過と吸収
促進機構に関する研究

修第146号 薬理学 鈴木靖規
腎神経刺激による抗利尿作用及びノルエピネフリン
放出に対するエンドセリン-1の影響

修第147号 薬理学 泉谷修一
腎臓における細胞機能へのグルタチオンの関与

修第148号 薬品分析学 山内健嗣
制癌活性を有するジヒドロキノ架橋白金(II)二
核錯体に関する研究

修第149号 薬品分析学 宮本佳明
ビタミンB₆関連化合物の香粧品への応用研究

修第150号 薬品物理化学 山元 淳
Papain-OT3 (非共有結合性低分子阻害剤) の相
互作用様式に関する構造化学的研究

修第151号 薬品物理化学 大野保則
¹H-NMRによる μ -選択性 Dermorphin と δ -選
択性 Dermorphin- II の立体構造解析

修第152号 放射薬品学 古谷順良
 γ 線照射による生薬製剤の汚染微生物制御に関す
る基礎研究 -甘草附着菌の放射線感受性と含有
成分の安定性-

修第153号 放射薬品学 村上勝彦
モノアミノオキシダーゼ-B特異的阻害活性を有
する放射性ヨウ素標識ベンズアミド誘導体に関す
る研究

平成4年度 前期行事予定

- | | | |
|----------|---|---|
| 4月2日(木) | } | 第77回薬剤師国家試験 |
| 4月3日(金) | | |
| 4月9日(木) | | 入学式(学部, 大学院) |
| 4月10日(金) | | 新入生ガイダンス |
| 4月11日(土) | | 新入生健康診断, アドバイザー面談 |
| 4月13日(月) | | 前期授業開始
レントゲン検診(新入生以外の学生, 教
職員の女子) |
| 4月14日(火) | | レントゲン検診(新入生以外の学生, 教
職員の男子) |
| 4月18日(土) | | 選択科目履修届提出締切(教務課) |
| 4月27日(月) | | 新入生奨学金ガイダンス |
| 5月9日(土) | | 創立記念日(休業) |
| 5月14日(木) | | 健康診断(新入生以外の女子学生) |
| 5月15日(金) | | 健康診断(新入生以外の男子学生) |
| 5月16日(土) | | 新入生歓迎会(五月祭) |
| 7月22日(水) | | 前期授業終了 |
| 7月23日(木) | } | 夏季休業 |
| 9月12日(土) | | |
| 9月14日(月) | } | 前期定期試験(1~4年次生) |
| 9月30日(水) | | |

教員研究業績一覽 (1991年)

(1991. 1. 1 ~ 12. 31)

1. 研究学術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 尹 康子, 田中千秋, 井上正敏	Structural study of aldose reductase inhibitors. Ten oxazolecarbamate derivatives	Acta Crystallogr., Sect. B, 47, 806 (1991)
上田仁司, 伊与博美, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	Cooperative stacking and hydrogen bond pairing interactions of fragment peptide in cap binding protein with mRNA cap structure	Biochim. Biophys. Acta, 1075, 181 (1991)
上田仁司, 植 兆満, 林 直美, 満永順一, 尹 康子, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	X-Ray crystallographic, conformational study of 5'-O-[N-(L-alanyl) sulfamoyl]adenosine, a substrate analogue for alanyl-tRNA synthetase	Biochim. Biophys. Acta, 1080, 126 (1991)
大石宏文, 石田寿昌, 他	Synthetic anthracyclines : Total synthesis of D-ring pyridine and pyrazine analogues of 11-deoxydaunomycin	Chem. Pharm. Bull., 39, 857 (1991)
伊与博美, 上田仁司, 宇佐美吉英, 加福やよい, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	Sequence-dependent interaction of acidic amino acid with guanine base in tryptophan-containing dipeptides : Spectroscopic studies	Chem. Pharm. Bull. 39, 2483 (1991)
加福やよい, 松井ゆかり, 大谷準子, 宇佐美吉英, 上田仁司, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	Spectroscopic study on interaction of nucleic acid base with tryptophan-containing tripeptides:Acetyl-Trp-X-Trp-NHCH ₃ (X=Gly, Asn, Asp, Gln and Glu)	Chem. Pharm. Bull., 39, 2487 (1991)
上田仁司, 伊与博美, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Combination of Trp and Glu residues for recognition of mRNA cap structure : Analysis of m ⁷ G base recognition site of human cap binding protein (IF4E) by site-directed mutagenesis	FEBS Lett, 280, 207 (1991)
上田仁司, 丸山 均, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Expression of a synthetic gene for human cap binding protein (human IF4E) in <i>Escherichia coli</i> and fluorescence studies on interaction with mRNA cap structure analogues	J. Biochem. 109, 882 (1991)
山本大助, 松本慶太, 大石宏文, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Refined X-ray structure of papain-E-64-c complex at 2.1 Å resolution	J. Biol. Chem. 266, 14771 (1991)
土井光暢, 尹 康子, 菊地正美, 石田寿昌, 井上正敏	Multiple base-pairing mode of 9-ethyl-8-hydroxy-guanine in three different crystal phases	J. Chem. Soc. Perkin Trans., 1, 55 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
土井光暢, 尹 康子, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Conformational study of a potent human renin inhibitor : X-Ray crystal structure of isopropyl(2 <i>R</i> , 3 <i>S</i>)-4- cyclohexyl-2-hydroxy-3 - (<i>N</i> - [(2 <i>R</i>)-2morpholinocarbonylmethyl-3-(1-naphthyl)propionyl]-L-histidylamino)butyrate (KRI-1314), a pentapeptide analogue with amino acid sequence corresponding to the cleavage site of angiotensinogen	J. Chem. Soc. Perkin Trans. 1, 1153 (1991)
石田寿昌, 伊与博美, 上田仁司, 土井光暢, 井上正敏, 他	Interaction of indole derivatives with biologically important aromatic compounds. Part 32. Importance of simultaneous cooperation of hydrogen bond pairing and stacking interactions for recognition of guanine base by a peptide : X-Ray crystal analysis of 7- methylguanosine-5'-phosphate-tryptophanylglytamic acid complex	J. Chem. Soc. Perkin Trans. 1, 1847 (1991)
土井光暢, 石田寿昌, 他	Molecular conformation of swinholid A, a potent cytotoxic dimeric macrolide from the okinawan marine sponge <i>Theonella swinhoei</i> : X-Ray crystal structure of its diketone derivative	J. Org. Chem. 56, 3629 (1991)
大石宏文, 藤森由美子, 尹 康子, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Molecular and crystal structures of 2-(2-pyridyl)thioacetamide derivatives and possible relationship with inhibitory activity for gastric acid secretion	J. Pharm. Sci. 80, 190 (1991)
池田 潔, 井上正敏 石田寿昌, 他	Adaptability of restrained molecular dynamics for tertiary structure prediction: Application to <i>Crotalus atrox</i> venom phospholipase A ₂	Protein Engineering, 4, 443 (1991)
大石宏文	高分子X線結晶構造解析の世界的現状とプログラムシステムの開発状況	DECUS 論文集, 11, 61 (1991)
大石宏文, 他	Interaction between the left-handed Z-DNA and polyamine. The crystal structure of the d(CG) ₃ and N-(2-aminoethyl)-1, 4-diaminobutane complex	FEBS Lett. 284, 238 (1991)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子	Spectrophotometric determination of hydrogen peroxide based on fading of <i>o</i> -sulfophenylfluorone-titanium(IV) complex	Anal. Sci., 7, 327(1991)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子	Spectrophotometric determination of urinary protein with <i>o</i> -sulfophenylfluorone-titanium (IV) complex	Anal. Sci., 7, (Suppl)771(1991)
森 逸男, 藤田芳一, 生田絹子, 豊田美奈子, 福田千草, 加藤圭司	Spectrophotometric determination of tantalum with <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein in the mixed micellar media of hexadecyltrimethylammonium bromide and Brij 35	Anal. Lett., 24, 871 (1991)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 前窪佐知	Determination of rhodium by third- derivative spectrophotometry with <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein in the presence of <i>N</i> -hexadecylpyridinium chloride	Bull. Chem. Soc. Jpn., 64, 1689 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 柏木美千代	Spectrophotometric determination of iron (Ⅲ) with <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein after preconcentration on a membrane filter	Fresenius J. Anal. Chem., 340, 57 (1991)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 加藤圭司, 藤田和美, 岡崎裕司	Spectrophotometric determination of antimony with vanillylfluorone in the presence of poly (vinyl alcohol)	Talanta, 38, 343 (1991)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 加藤圭司, 吉田直美, 赤木昌夫	Fluorimetric determination of hydrogen peroxide by use of the fluorescence reaction between <i>N</i> -(4'-hydroxyphenyl)- <i>N</i> -(4-methylquinolinyl) amine and cobalt (Ⅱ) in the presence of trimethylstearylammonium chloride	Talanta, 38, 683 (1991)
千熊正彦, 他	Application of peroxidase-like activity of anion-exchange resins modified with manganese (Ⅲ)-tetrakis (sulfophenyl) porphine to determination of glucose, cholesterol and triglyceride.	Anal. Sci., 7, 277 (1991)
千熊正彦, 他	Uricase-like catalytic activity of ion-exchange resins modified with metalloporphyrins.	Talanta, 38, 779, (1991)
千熊正彦, 他	セレントリスルフィド生成反応を利用したセレン(Ⅳ)の分離濃縮と原子吸光分析	Biomed. Res. Trace Elements, 2, 85, (1991)
大桃善朗, 平田雅彦, 村上勝彦, 田中千秋, 他	Synthesis of Fluorine and Iodine Analogues of Clorgyline and Selective Inhibition of Monoamine Oxidase A	Chem. Pharm. Bull., 39, 1038 (1991)
大桃善朗, 平田雅彦, 村上勝彦, 田中千秋, 他	Synthesis of [¹²⁵ I] Iodoclogyline, a Selective Monoamine Oxidase A Inhibitor, and Its Biodistribution in Mice.	Chem. Pharm. Bull., 39, 3343 (1991)
加島竜彦, 田之口真理子, 有本正生, 山口秀夫	Studies on the Constituents of the Seeds of <i>Hernandia ovigera</i> L. VIII. Syntheses of (±)-Desoxypodophyllotoxin and (±)-β-Peltatin-A Methyl Ether	Chem. Pharm. Bull., 39, 192 (1991)
田之口真理子, 細野江津子, 北岡真由子, 有本正生, 山口秀夫	Studies on the Constituents of the Seeds of <i>Hernandia ovigera</i> L. IX. Identification of Two Dibenzylbutyrolactone-Type Lignans and an Attempt of Conversion into Phenyltetralin-Type Lignan	Chem. Pharm. Bull., 39, 1873 (1991)
沼田 敦, 寒原昭一, 高橋千佳, 藤木陵子, 米田倫子, 藤田榮一, 他	Cytotoxic Activity of Marine Algae and a Cytotoxic principle of the Brown Alga <i>Sargassum tortile</i>	Chem. Pharm. Bull., 39, 2129 (1991)
沼田 敦, 高橋千佳, 藤木陵子, 宮本多美江, 他	Isolation and Structure of Cytostatic Steroidal Saponins from the African Medicinal Plant <i>Balanites aegyptica</i>	J. Nat. Prod., 54, 1491 (1991)
沼田 敦, 他	Alkaloid <i>N</i> -Oxides from <i>Lycoris sanguinea</i>	Phytochemistry, 30, 675 (1991)
栗原拓史, 土井美紀, 濱浦香代, 大石宏文, 春沢信哉, 米田龍司	Meisenheimer Rearrangement of 2-Ethenyl-1,4,5,10b-Tetrahydro-2H-Azetopyrido[3,4-b]Indole <i>N</i> -Oxides: New Route to The 12(S)Carba-Eudistomin Skeleton	Chem. Pharm. Bull. 39, 811 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
春沢信哉, 大崎浩孝, 黒川登志子, 藤井晴美, 米田龍司, 栗原拓史	[3, 3] Sigmatropic Ring Expansion of Cyclic thionocarbonates. IV. Relationship between Ring Size of Cyclic Thionocarbonates and Geometry of Created Double Bond in Medium-and Large-Membered Thiocarbonates	Chem. Pharm. Bull., 39, 1659 (1991)
栗原拓史, 寒川愉美, 横出佳代, 大石宏文, 春沢信哉, 米田龍司	Chemistry of Tetrahydro-1, 3-oxazin-2-one : New-Method for the Synthesis of Indoloquinolizidine Derivatives	Chem. Pharm. Bull., 39, 3157 (1991)
栗原拓史, 大内かおり, 川本美津子, 春沢信哉, 米田龍司	Meisenheimer Rearrangement of 2- Ethyl-1, 4, 5 10b- tetrahydro - 2H - azetopyrido [3, 4 - b] indole N-oxides. Formation of 3, 6 - Epoxy-1, 2, 3, 4, 5, 6 - hexahydroazocino[5, 6 - b]indoles	Chem. Lett., 1781 (1991)
栗原拓史, 松原義隆, 春沢信哉, 米田龍司	Chemistry of ethyl 2- t - Butoxycarbonyl (methyl)-amino methyl -3-hydroxy-3-phenyl(or 3 - vinyl)propionate: Mechanistic Considerations in the Formation of Tetrahydro - 1, 3 -oxazin-2-ones	J. Chem. Soc. Perkin Trans. 1, 3177 (1991)
米田龍司, 春沢信哉, 栗原拓史	Cyano Phosphate : An Efficient Intermediate for the Chemoselective Conversion of Carbonyl Compounds to Nitriles	J. Org. Chem. 56, 1827 (1991)
春沢信哉, 大崎浩孝, 米田龍司, 栗原拓史, 大石宏文	[3,3] Sigmatropic Ring Expansion of Cyclic Thionocarbonates. 3. Computational evaluation of the Transition States	Tetrahedron Lett., 32, 1203 (1991)
浦田秀仁, 上野美和, 山崎 太, 赤木昌夫	Interstrand cross - linking of the hexadeoxynucleotide d(TACGTA) upon Reaction with trans-diamminedichloroplatinum (II)	Biochem. Biophys. Res. Commun, 175, 537 (1991)
浦田秀仁, 篠原圭子, 小倉絵美子, 上田義明, 赤木昌夫	Mirror - Image DNA	J. Am. Chem. Soc., 113, 8174 (1991)
浦田秀仁, 赤木昌夫	Photo-induced formation of the 2 - deoxyribonolactone-containing nucleotide for d (ApCpA) ; effects of neighboring bases and modification of deoxycytidine	Nucleic Acids Research, 19, 1773 (1991)
三野芳紀	Matal-containing components in medical plants. II . Convenient identification of some <i>Datura</i> species by peptide mapping of their ferredoxins	Chem. Pharm. Bull., 39, 1585 (1991)
三野芳紀, 他	The environment of Fe ₄ S ₄ clusters in ferredoxins and high-potential iron proteins. New information from X-ray crystallography and resonance Raman spectroscopy	J. Am. Chem. Soc., G13, 2055 (1991)
三野芳紀	薬用植物中の金属含有成分 (1) ダツラ葉中の鉄含有成分について	生薬学雑誌 45, 153 (1991)
草野源次郎, 阿部真弓, 他	<i>Chloranthus</i> 属植物の成分研究 ヒトリシズカの成分研究補遺	薬学雑誌 111, 756 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
馬場きみ江, 肖 永慶, 谷口雅彦, 大石宏文, 小澤 貢	Isocoumarins from <i>Coriandrum sativum</i>	Phytochemistry, 30, 4143 (1991)
馬場きみ江, 肖 永慶, 谷口雅彦, 小澤 貢, 藤田榮一	中国産防風の研究(Ⅲ) 水防風の成分について	生薬学雑誌 45, 167 (1991)
小延鑑一, 山本英倫子, 豊元 操, 他	血液ろ過法で除去された尿毒症中分子物質の肝細胞 酵素への影響	日本腎臓学会誌 33, 67 (1991)
井上晴嗣, 小田俊男, 小山純一, 池田 潔, 他	Amino acid sequences of nerve growth factors de- rived from cobra venoms	FEBS Lett. 279, 38 (1991)
池田 潔, 井上晴嗣, 尼崎智佳, 他	Kinetics of the hydrolysis of monodispersed and micellar phosphatidylcholines catalyzed by a phos- pholipase C from <i>Bacillus cereus</i>	J. Biochem. 110, 88 (1991)
藤井 忍, 井上俊彦, 井上晴嗣, 池田 潔	Kinetics of the hydrolysis of monodispersed dihex- anoylphosphatidylcholine catalyzed by bovine pan- creatic phospholipase A ₂ : Roles of Ca ²⁺ binding and ionizations of amino acid residues in the active site	J. Biochem. 110, 1008 (1991)
井上晴嗣, 小垣弘之, 池田 潔, 他	Amino acid sequences of the two subunits of a phos- pholipase A ₂ inhibitor from the blood plasma of <i>Trimeresurus flavoviridis</i> : Sequence homologies with pulmonary surfactant apoprotein and animal lectins	J. Biol. Chem. 266, 1001 (1991)
藤本陽子, 近藤由貴代, 中島麻理子, 高井真司, 佐久間 覚, 藤田 直	Stimulation of prostaglandin synthesis in rabbit gas- tric antral mucosal slices by desferrioxamine in vi- tro	Biochemistry International, 24, 33 (1991)
藤本陽子, 島田秀治, 藤川 徹, 佐久間 覚, 藤田 直	Triacylglycerol lipase mediated release of arachido- nic acid for prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla microsomes	Prostaglandins Leukotrienes and Essential Fatty Acids, 42, 251 (1991)
藤本陽子, 横田美緒, 大館祐美, 佐久間 覚, 藤田 直	Effects of Fe ²⁺ , Fe ³⁺ and desferrioxamine on para- quat accumulation by rabbit kidney cortex slices	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol., 73, 115 (1991)
森本一洋, 山口 博, 岩倉泰士, 森坂勝昭, 他	Effects of viscous hyaluronate-sodium solutions on the nasal absorption of vasopressin and an analogue	Pharm. Res., 8, 471 (1991)
森本一洋, 山口 博, 岩倉泰士, 宮崎誠, 中谷恵美, 岩本 勉, 他	Effects of Proteolytic Enzyme Inhibitors on the Nas- al Absorption of Vasopressin and An Analogue	Pharm. Res., 8, 1175 (1991)
岩倉泰士, 森本一洋	Transdermal Iontophoretic Delivery of Vasopressin and its Analogue in Rats	S. T. P. Pharma. Sciences, 1, 387 (1991)
堤あゆみ, 酒井 清, 他	Aqueous-Lipid Transdermal Formulation of Anti- Inflammatory Agents, Prepared with Hydrogenated Soya Phospholipid	Drug Dev. Ind. Pharm., 17, 2157 (1991)
堤あゆみ, 福井美有紀, 酒井 清, 他	Sodium Ion Enhancing Transport of <i>o</i> -Hydroxy Ben- zoates across Lipid Membrane	Yakuzaigaku, 51, 230 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
久木一弘, 松村靖夫, 池川るり子, 西口純加, 林一孝, 高岡昌徳, 森本史郎	Evidence for phosphoramidon-sensitive conversion of big endothelin -1 to endothelin -1 in isolated rat mesenteric artery	Biochem. Biophys. Res. Commun., 177, 1127 (1991)
松村靖夫, 池川るり子, 高岡昌徳, 森本史郎, 他	Phosphoramidon inhibits the conversion of intracis-ternally administered big endothelin-1 to endothelin-1	Biochem. Biophys. Res. Commun., 178, 24 (1991)
松村靖夫, 池川るり子, 塚原八重子, 高岡昌徳, 森本史郎	N-ethylmaleimide differentiates endothelin converting activity by two types of metalloproteinases derived from vascular endothelial cells	Biochem. Biophys. Res. Commun., 178, 531 (1991)
松村靖夫, 池川るり子, 塚原八重子, 高岡昌徳, 森本史郎	Conversion of big endothelin-1 to endothelin-1 by two types of metalloproteinases of cultured porcine vascular smooth muscle cells	Biochem. Biophys. Res. Commun., 178, 899 (1991)
高岡昌徳, 白上一志, 藤野勝宏, 三木恵子, 三宅祐司, 安田政代, 王 冠福, 久木一弘, 松村靖夫, 森本史郎	Phosphoramidon-sensitive endothelin converting enzyme in rat lung	Biochem. Int., 25, 697 (1991)
鈴木靖規, 松村靖夫, 他	Effects of torasemide on renal haemodynamics and function in anaesthetized dogs	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 18, 497 (1991)
池川るり子, 松村靖夫, 塚原八重子, 高岡昌徳, 森本史郎	Phosphoramidon inhibits the generation of endothelin-1 from exogenously applied big endothelin-1 in cultured vascular endothelial cells and smooth muscle cells	FEBS Lett., 293, 45 (1991)
林 一孝, 松村靖夫, 吉田靖志, 鈴木靖規, 森本史郎	The role of endogenous angiotensin II in antidiuresis and norepinephrine overflow induced by stimulation of renal nerves in anesthetized dogs	J. Cardiovasc. Pharmacol., 17, 807 (1991)
松村靖夫, 池川るり子, 久木一弘, 塚原八重子, 高岡昌徳, 森本史郎	Conversion of big endothelin-1 to endothelin-1 by phosphoramidon-sensitive metalloproteinase derived from aortic endothelial cells	J. Cardiovasc. Pharmacol., 17 (Suppl. 7), S 65 (1991)
高岡昌徳, 福森百合子, 白上和志, 池川るり子, 松村靖夫, 森本史郎	Mode of cleavage of porcine big endothelin -1 by aspartic proteinases	J. Cardiovasc. Pharmacol., 17 (Suppl. 7), S 68 (1991)
松村靖夫, 池川るり子, 鈴木靖規, 高岡昌徳, 森本史郎, 他	Phosphoramidon prevents cerebral vasospasm following subarachnoid hemorrhage in doge : The relationship to endothelin-1 levels in the cerebrospinal fluid	Life Sci., 49, 841 (1991)
玄番宗一, 福石信之	Amelioration by ascorbic acid of cisplatin-induced injury in cultured renal epithelial cells	Contributions to Nephrology 95 138 (1991)
亀山悦子, 玄番宗一	Cisplatin-induced injury to calcium uptake by mitochondria in glutathione-depleted slices of rat kidney cortex	Japan. J. Pharmacol., 55, 174 (1991)
亀山悦子, 玄番宗一	The iron chelator deferoxamine prevents cisplatin-induced lipid peroxidation in rat kidney cortical slices	Japan. J. Pharmacol., 57, 259 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
黒田和道, 他	Processing of influenza virus hemagglutinin in insect cells	Behring Inst. Mitt. 89, 27 (1991)
保坂康弘, 他	Binding of viral glycoprotein with trypsin and its relation to virulency. II. Comparison between bovine and <i>Streptomyces</i> trypsins	Cell Structure and Function., 16, 39 (1991)
保坂康弘, 他	Pentamer arrangements in fragments of human rotavirus inner capsids observed by low dose electron microscopy	J. Electron Microsc., 40, 407 (1991)
黒田和道, 他	Site - specific mutagenesis identifies three cysteine residues in the cytoplasmic tail as acylation sites of influenza virus hemagglutinin	J. Virol. 65, 2491 (1991)
黒田和道, 他	Retarded processing of influenza virus hemagglutinin in insect cells	Virology 180, 159 (1991)
辻坊 裕, 坂本隆志, 宮本勝城, 藤本真弓, 稲森善彦, 他	Amino Acid Compositions and Partial Sequences of Xylanases from a New Subspecies, <i>Nocardiopsis dassonvillei</i> subsp. <i>alba</i> OPC -18	Agric. Biol. Chem., 55, 2173 (1991)
稲森善彦, 小川雅史, 西口一基, 小山智子, 辻坊 裕, 他	Phytogrowth - inhibitory and Antimicrobial Activities of 3, 4'-dihydroxy - α , β - diethylstilbene, the isomer of diethylstilbestrol	Chem. Pharm. Bull., 39, 218 (1991)
稲森善彦, 小川雅史, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 小澤 貢, 他	The Inhibitory Effect of 3, 3', 4, 5'- Tetrahydroxystilbene, a Constituent of <i>Cassia garrettiana</i> , on Anti - IgE - Induced Histamine Release From Human Basophils <i>in Vitro</i>	Chem. Pharm. Bull., 39, 805 (1991)
辻坊 裕, 吉田征生, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Isolation and Characterization of a Chitin Degrading Marine Bacterium Belonging to the Genus <i>Alteromonas</i>	Nippon Suisan Gakkaishi, 57, 2127 (1991)
稲森善彦, 小川雅史, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Inhibitory Effects of 3, 3', 4, 5' - Tetrahydroxystilbene and 3, 3', 4, 5' - Tetrahydroxybibenzyl, the Constituents of <i>Cassia garrettiana</i> on Antigen - Induced Histamine Release <i>in Vitro</i>	Chem. Pharm. Bull., 39, 3353 (1991)
稲森善彦, 馬場きみ江, 辻坊 裕, 谷口雅彦, 小澤 貢, 他	Antibacterial Activity of Two Chalcones, Xanthoangelol and 4 - Hydroxyderricin, Isolated from the Root of <i>Angelica Keiskei</i> KOIDZUMI	Chem. Pharm. Bull., 39, 1604 (1991)
稲森善彦, 西口一基, 松尾奈都子, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 他	Phytogrowth-Inhibitory Activities of Tropolone and Hinokitiol	Chem. Pharm. Bull., 39, 2378 (1991)
田中麗子, 松永春洋	9 β -Lanostane-Type Triterpene Lactones from the Stem Bark of <i>Abies veitchii</i>	J. Natural Products 54, 1337 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
田中麗子, 松永春洋	Fernane and unusually migrated Fernane Triterpene - Triones from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry 30, 293 (1991)
田中麗子, 松永春洋	Triterpene Lactones from the Stem Bark of <i>Abies firma</i>	Phytochemistry 30, 1983 (1991)
田中麗子, 松永春洋	Fernane and Multiflorane Triterpene Ketols from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry 30, 4093 (1991)
加藤義春	Probleme der nationalen Bewegung in Deutschland(II)	ばいでいあ 15, 159 (1991)
楠瀬健昭	ロレンスの小説作法管見	とい, XI, 15 (1991)
河鱈一彦, 大石宏文, 望月伸三郎, 他	体力診断テストにおける体力の評価方法とその問題点	大阪体育学研究 28・29 25 (1991)

2. シンポジウム

著 者	題 目	掲 載 誌
石田寿昌	Possible relationship between the stereostructures and activities of opioid peptides	J. Pharmacobio-Dyn. 14, S-10 (1991)
佐藤卓史, 千熊正彦, 他	Determination of proteins and desmosine in human bronchoalveolar lavage fluid.	J. Pharmacobio - Dyn., 14,S - 94 (1991)
千熊正彦, 他	A catalytic activity of ion-exchange resins modified with metal-porphines in oxidative reaction of ascorbic acid.	J. Pharmacobio - Dyn., 14,S - 123(1991)
千熊正彦, 山内健嗣, 山口敬子, 山根浩稔, 他	Chemical and biological properties of hydroxo - bridged dinuclear complexes of anticancer platinum (II) complexes.	J. Pharmacobio - Dyn., 14,S - 125 (1991)
木村捷二郎, 他	A Study on Vertical Distribution of Radionuclides in the Soil Layers 0 ~ 30 cm Deep in Relation to their Particle Size	The Third International Symposium on Advanced Nuclear Energy Reserch, Gloval Environment and Nuclear Energy., (1991)
木村捷二郎, 他	Radon Concentration and, Absorbed Dose Rate in Air and Concentration of Natural Radionuclides in Soil in Osaka District, Japan	Fifth International Symposium on the Natural Radiation Environment (1991)
森本一洋, 岩倉泰士, 山口博, 宮崎 誠, 中谷恵美, 森坂勝昭	Effects of Proteolytic Enzyme-Inhibitors as an Absorption Enhancer on the Nasal and Transdermal Delivery Systems of Polypeptides	J. Pharmacobio-Dyn., 14,S-34 (1991)
鶴岡浩志, 楊 秀珍, 黒田和道, 保坂康弘	Growth of Influenza A Virus in Human Lymphoid Cells	J. Pharmacobio - Dyn., 14, S-153 (1991)
大石宏文, 小山智子, 宮本勝城, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他	Relationship Between Conformation and Biological Activity of Racemomycin-Related Compounds	J. Pharmacobio-Dyn., 14, S-144 (1991)

著 者	題 目	掲 載 誌
辻坊 裕, 折越英介, 吉田征生, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Purification and Gene Cloning of Chitinase Produced by a Marine Bacterium Belonging to Genus <i>Alteromonas</i>	J. Pharmacobio-Dyn., 14,S-148 (1991)
辻坊 裕, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Purification and Characterization of Two Types of Alkaline Serine Proteases Produced by an Alkaliphilic Actinomycete	J. Pharmacobio-Dyn., 14,S-149 (1991)
松村瑛子, 坂口 実, 他	Purification and Characterization of New Enzymes, Urethane Hydrolases and Their Utility	J. Pharmacobio-Dyn., 14,S-150 (1991)

3. 紀要・総説・解説・著書等

著 者	題 目	書名または掲載誌 (出版社)
藤田芳一	糖脂質, リン脂質の簡便・高感度な薄層クロマトグラフィー	ぶんせき, 1991, 833
藤田芳一, 千熊正彦, 他	第I編 光を用いる分析法 (1 紫外・可視吸光光度法)	薬学の機器分析, 広川書店 (1991)
千熊正彦	白金は DNA と単結合するだけでも制がん活性を発現する?	ファルマシア, 27, 931 (1991)
千熊正彦, 青木洋之, 他 (分担執筆)	Modification of anion-exchange resin with terfunctional reagents : determination of trace amounts of heavy metal ions by graphite-furnace atomic absorption spectrometry with a direct heating of resin modified with dithizone sulfonate or other thiols.	New Developments in Ion Exchange, Kodansha Ltd., 389 (1991)
千熊正彦, 他	薬学の機器分析	広川書店(1991)
木村捷二郎, 泰松明子, 他	Experimental Studies on Absorbed Dose in Radiation Sterilization of Pharmaceutical Preparation	Bull. of Univ. of Osaka Pref., Series A, 40, 167 (1991)
木村捷二郎, 宮村知宇, 他	無トリチウム水を製造するための電気分解—低温酸化を組み合わせた水製造装置の改良	保健物理, 26, 355 (1991)
木村捷二郎, 他	大阪地方におけるラドン濃度および土壤中 L, Th 系列核種分布について	環境ラドン 電子科学研究所 (1991)
草野源次郎	自然百科シリーズ 1 宮城の山菜	河北新報社 (1991)
小澤 貢, 馬場きみ江, 他	資源・応用 薬用植物学	広川書店 (1991)
掛見正郎	第11章 薬理効果の速度論 —薬動学と薬力学の接点—	粟津荘司, 小泉 保編「最新生物薬剤学」南江堂 323 (1991)
掛見正郎	第 6 章 生物薬剤学	瀬崎 仁, 木村聡城郎編「薬剤学第 2 版」広川書店 296 (1991)
掛見正郎	第 5 章 排泄 第 6 章 医薬品の有効性	辻 彰編「わかりやすい生物薬剤学」広川書店 187, 215(1991)

著 者	題 目	書名または掲載誌 (出版社)
森本一洋	3.4 界面化学, 4.5 軟膏剤とその類似製剤, 5.3 持続性製剤	現代薬学シリーズ13『薬剤学』 朝倉書店 (1991)
井上晴嗣, 池田潔, 他	第3章タンパク質	生体を構成する高分子◇構造と 機能◇ (岡田芳男編) 広川書店 (1991)
森本史郎, 松村靖夫	Manidipine hydrochloride [CV-4093 (2 HCl)]	Cardiovasc. Drug Rev., 9, 207 (1991)
森本史郎, 松村靖夫	Renin release の機序	腎と透析 (特集: 傍糸球体装置 の形態と機能), 31, 709 (1991)
森本史郎, 松村靖夫	利尿薬 (薬物療法 manual)	日本臨牀 49, 415 (1991年増 刊号)
玄番宗一	シスプラチンによる急性腎不全	腎と透析 (特集腎疾患モデル) 31, 421 (1991)
玄番宗一, 松下智哉, 藤澤知寿子, 山口達也, 亀山悦子	Enhancement by glutathione depletion of cisplatin - induced nephrotoxicity in rats : Effect of antioxidant pretreatment	Nephrotoxicity, Edited by P. H. Bach et. al., Marcel Dekker, Inc., New York 315 (1991)
安田正秀	第3章 動物実験の基礎 3.3 試料の投与	続 医薬品の開発 1 実験動物 の飼育と利用 220 広川書店 (1991)
保坂康弘, 他	トピックス「最先端技術による微生物構造観察 1」	日本電子顕微鏡学会 26, 107 (1991)
保坂康弘	第8回国際ウイルス会議報告	日本電子顕微鏡学会 26, 110 (1991)
保坂康弘, 他	トピックス「最先端技術による微生物構造観察 2」	日本電子顕微鏡学会 26, 182 (1991)
保坂康弘, 楊 秀珍, 天野拓之, 他	Immunoelectron microscopy approaches for topogra- phy of virion glycoproteins and for interactions of virus and human lymphoid cells.	South East Asian Region and Western Pacific Region of the World Health Organization p. 197 (1991)
保坂康弘, 黒田和道, 鶴岡浩志, 他	第2章 核酸	生体を構成する高分子 (岡田芳 男編) 広川書店 (1991)
土井 勝	Theoretical study of the inverse muon decay	ぱいでいあ 15, 131 (1991)
三谷佐孝	On $\omega (X \times Y) = \omega (X) \times \omega (Y)$	ぱいでいあ 15, 155 (1991)
松島哲久	ユーモアから信仰へ—『セーレン・キェルケゴール 例外者』最終章—	キェルケゴール研究 21, 59 (1991)
松島哲久	医の倫理研究(2)	聖隷学園浜松衛生短期大学紀要 14, 29 (1991)

初参加！ 善戦？しました。

三葉科大学（薬学部）教職員親睦硬式テニス大会



昨年11月30日（土）の昼下がり、晩秋の日ざしを浴びた六甲山系のふもと阪急岡本駅に、本学教職員の15名が勢揃いしました。関西地区の三葉科大学（薬学部）（京薬大、神戸女子薬大、武庫川女子大）教職員親睦硬式テニス大会に、我が大阪薬科大学も参加することになったのです。男女ほぼ相半ばし、昼食を終えたばかりの満ち足りた様子の者、息を切らせながら急ぎ足でパン買いから戻ったばかりの者、ちょっと緊張気味にケースに入れたラケットのグリップを握り締めている者など、メンバー一同で急な坂道を登り、会場である神戸女子薬科大学へと向かいました。

紅葉に燃える木立を背景に、テニスコートに勢揃いした参加者（今回は京薬大不参加）を前に、神戸女子薬科大学・金子太郎理事長による開会の辞や、武庫川女子大学・日下晃理事長のご挨拶の後、約3時間にわたって親善試合を行いました。総合成績としては、本学チームは最下位ではありましたが、藤井・秋月組、辻坊・宮原組、鶴岡・河鱈組は特に善戦しました。親善試合の後、成績とは関係なく各大学からの混成チー

ムによる交流試合も行われました。初参加の私達は、他大学チームの試合巧者ぶりに感心しましたが、他大学では、学内にテニスコートが整備されていますので、普段のテニス練習量の差が成績結果として表れたのかも知れません。試合後、神戸女子薬科大学内のききょう会館で懇親会があり、神戸女子薬科大学・永倉直敬学長などによるご挨拶の後、親善試合の様子をビデオで振り返りながら、他大学の参加者との親睦と交流をはかることができました。

本学チームの成績は、はかばかしくなかったのですが、その残念な思いよりもむしろ大いに試合を楽しんだという気持ちで帰途につけたのは幸いでした。これを機会に、本学におきましても、テニスに親しむ方々が多くなり（できれば「同好会」的に）、教職員間の親睦をはかるとともに、他大学との試合におきましても、より善戦するチームになりますよう期待します。

（記 教授 玄番 宗一）

（追記「教職員テニス愛好会」の世話人を募ります）

第9回学友会スキー講習会に同行して（赤倉紀行）

平成4年2月23日(日)は、本学学友会体育局が主催する第9回スキー講習会の出発の日である（20時集合、21時出発）。20時30分、出発前の人員点呼をすると、2名が体調を崩し欠席となっている。これで最終的には、女子56名、男子20名の合計76名である。

さらに講師として今村悟先生（在独11年）、熊本和正先生（元薬大・現近大）、仲田秀臣先生と本学教員の望月・河鱈を加えての総勢81名でバス2台に分乗して定刻に本学をスタートした。バスは西名阪～名阪国道～東名阪と順調に渋滞も無く中央自動車道へ進み、赤倉の駐車場に24日午前6時、予定時間に到着した。バス旅行は、貸し切りで気安い仲間だけと言う安心感はあるが、2時間毎の休憩が曲者である。やっと眠りかけると起こされてしまう、これが終点まで続くので眠れない、疲労が溜り体を重く感じさせる。

実行委員の美濃部・森岡君や南・松月さんは、各休憩所での点呼をしたり、寝惚けまなこでトイレに行き出発時間に遅れる学生を捜したりで、大変であったろうと思う。

宿は本学がここ14年間お世話になっている「まつや旅館」と時々お世話になる「赤倉荘」である。特に「まつや旅館」さんは長年のお付き合いで何かにつけて便宜を計って頂いているし、これがきっかけで卒業してから時々お世話になっている先輩も結構いるようである。

この日は、宿に入り仮眠のあと、貸しスキーの手続きを終えてゲレンデに向かう。12:30全員ゲレンデに集まって開講式を行う。事故に対する注意と班分け、ゼッケンなどを付けて準備運動を行ったあと班毎の行動に移る。班の内容は次の通りである。

- 1班：参加者の中で一番上手な人達（ピックアップ班）現地指導員に依頼。
- 2班：一応経験を積んでいる人達（上級班）今村先生担当。
- 3班：2～3日、スキー場に来たことがある人達（中級班）河鱈担当。
- 4班：2～3日、スキー場に来たことがある人達（中級班）仲田先生担当。
- 5班：スキーをするのが生まれて初めての人達（初級班）望月担当。
- 6班：スキーをするのが生まれて初めての人達（初級班）熊本先生担当。

班行動に移る頃から雪が降り出し視界も悪くなった。

中級班以上の班はリフトに乗って思い思いの方向に散ったが、初級班はスキーの板を付けずにゲレンデを歩くことから始まった。ゲレンデは水平に見えて水平でないから初めての人が板を付けると傾斜に沿って滑り出すので立つことも出来ないのである。そこで歩く、少し慣れたところで片足に板を付けて歩く、両足に板を付けて歩く、それからキックターンの練習をすると半日の練習がなくなってしまった。この日の初級班は高いお金を払って雪の上を転ぶ為に来たのかと、悔しいやらお金が勿体ないやらで、眠れない一夜だったのではないかと。

2日目も朝から雪、上級班にとっての新雪は高度の技術が要求されるから大変だったと思うが、初級班にはスキーが滑らず丁度である。午前中は昨日の復習と直滑降のストップとしての転び方で、午後は滑る距離を長くする。初級班もこの頃になるとスキーの滑りが楽しくなる。

3日目、朝から絶好のスキー日和で各班共に相当滑り込んだ1日であった。初級班も1日リフト券を買ってバンバン滑る。林間のエレガントコースを滑る笑顔を見ていると、これが2日前に泣きべそをかいていたとは想像できない自信に満ちた顔である。

晩は明日帰ると言う「サヨナラパーティーコンパ」が行われ、講習会の楽しさと青春の甘さがアルコールとジュースにミックスされて名残惜しい一夜を皆で楽しく過ごした。

4日目、愈々最終日となった。10時からゲレンデで閉講式、記念撮影、ビデオ撮り、そして最終の講習が行われた。この日も天気は快晴、雪の状態も最高であった。

この日の午後、1班（全員男子）は5班、6班（全員女子）を指導する「ランデブー講習」が行われた。男子1人に女子2人ずつの3人1グループの講習である。その成果は如何なるものであったか？ 男子の恥ずかしそうな顔と女子の紅く火照った顔は印象的であった。この仲睦まじい姿に嫉妬してか上級・中級班には無謀にも丸山の壁に挑戦し、健闘空しく雪達磨となった学生がいたとのことで楽しい講習会が終った。

全員無事に本学まで帰ってこれたのは、実行委員諸君の準備から後始末までの奉仕があったおかげである。心から感謝したい。

（記 教授 望月伸三郎）



スキーは初めて……
恐る恐るの滑り（初級班）



学友会スキー講習会

（'92. 2. 23～2. 28）



3つのサングラスを直線で結んだ
関係ではありません
（ランデブー講習）

熊本先生（元本学助手）（前列右端）率いる初級班



本講習会最高のスキーテクニックを誇る
ピックアップ班の面々



「閉講式」全員集合—妙高高原を背にして・赤倉銀嶺ゲレンデ—



編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-15

TEL 0723(32)1015(代表)

FAX 0723(32)9929